



| | |
|-------------|---|
| Title | 東京歯科大学広報 第313号 2024年06月27日発行 |
| Journal | 東京歯科大学広報(313) |
| URL | http://hdl.handle.net/10130/6491 |
| Right | |
| Description | |

東京歯科大学広報



第129回卒業証書授与式

第 129 回 卒業証書授与式 挙行

2024年3月11日(月)午前10時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、第129回卒業証書授与式が挙行された。第129期生121名は、慣れ親しんだ水道橋の学び舎を巣立ち、保護者の皆様、そして多くの恩師に見守られながら、晴れやかな表情でそれぞれの道へと羽ばたいていった。

はじめに笠原正貴学生部長より開式の辞が述べられ、続いて片倉朗副学長の学事報告が行われた。阿部伸一教務部長より卒業生の氏名が呼名され、緊張した面持ちながらも、無事に卒業式を迎えることができた喜びと安堵、そして凛々しい表情を、一人ひとりの姿から垣間見ることができた。

続いて一戸達也学長より、卒業生を代表して五十嵐由貴さんに卒業証書が授与された。また各賞の受賞は、学長賞に五十嵐さん、血脇賞受賞者4名を代表して廣瀬 優さん、井上 裕賞には金輪英俊さん、精励賞受賞者10名を代表して翟 珉瑜さん、卒業論文賞受賞者11名を代表して金輪さんが登壇し、それぞれに賞状および金メダルが授与された。

その後、一戸学長より告辞が述べられ、井出吉信理事長、富山雅史同窓会長より卒業生へ祝辞が送られた。また在校生を代表して伊藤優二郎さん(第5学年)より、先輩への心からの感謝と祝いの気持ちがこもった送辞が読み上げられ、これに応じて卒業生代表の五十嵐さんが答辞を述べた。最後に、全員で校歌を斉唱し、第129回卒業証書授与式は閉式した。

引き続き記念品贈呈式が行われ、大学、同窓会、父兄会からそれぞれ卒業生へ、卒業生一同から大学へ記念品が贈呈された。式を終えた卒業生は、血脇記念ホールで恩師とともに記念撮影を行い、新館第3講義室で卒業生一人ひとりに卒業証書が、各受賞者へ賞状および金メダルが山本 仁副学長より授与され、すべての行事が終了した。

散会後も、新館玄関前では多くの卒業生が、友人や在校生に囲まれながら、129期生の晴れやかなる次のステップを称えられつつ別れを惜しんでいた。

学事報告

東京歯科大学副学長 片倉 朗

現在、本学に在籍する学生は、836名であります。

これらの学生の教育については、専任者として教授60名、准教授40名、講師72名、助教113名の合計285名、このほかに臨床教員、客員教員、嘱託教員および非常勤講師の合計680名、合わせて965名が担当しております。

本日、第129回卒業証書授与式において卒業証書を授与

される者は、前記在籍者のうち121名であります。これを大学設置以来の卒業生と合わせますと9,974名、専門学校設置以来の卒業生と合わせますと15,987名となります。

なお、高山歯科医学院創立以来の卒業生を通算しますと16,278名となります。



▲告辞を述べる一戸学長



▲学事報告をする片倉副学長

告 辞

東京歯科大学
学長

一戸 達也

今日ここに、晴々と、そして凜々しい顔立ちで勢揃いした129期生の皆さん、卒業おめでとうでございます。そして、お子様を常にあたたかく励ましながら、支え、導いてこられたご家族の皆様、東京歯科大学を代表して、心からお祝いを申し上げます。

皆さんの大学生活は波乱に満ちたものでした。希望に燃えて本学に入学し、授業や課外活動だけでなく、友人とのコンパなど、大学生活を謳歌し始めた矢先に、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって、それまでの当たり前がすべて根本から覆ってしまいました。授業はオンラインとなり、臨床実習でも患者さんに接する機会が減り、課外活動やコンパは中止を余儀なくされ、極めて窮屈な生活を強いられることとなりました。皆さんが6年生となった最後の1年間だけでも、日常生活がほぼ元に戻り、クラブ活動やコンパ、県人会など、勉強だけでなく大学生活を送れたことはせめてもの救いでした。しかし、このコロナの3年間があったからこそ、皆さんは団結し、知恵を出し合ってさまざまな課題に対処していく術を、知らず知らずのうちに身につけることができたのではないのでしょうか。最後の1年間、総合講義のグループ学修で皆さんと一緒に勉強し、教え合い、学び合い、皆で一緒に前に進もうとする姿を見ていると、教員の一人として、皆さんの成長をととても頼もしく感じました。大学生活の6年間で身につけたさまざまな知恵をもとに、これからの人生を力強く歩んで行ってほしいと願っています。

6年前の入学試験の面接の時に、皆さんのうちの多くの方が、本学を受験した理由を「国家試験合格率がよいから」と回答してくれました。実際、本学に入学した時には歯科医師国家試験合格が大きな目標であったのだと思います。しかし今、皆さん自身が実感しているように、歯科医師国家試験合格は長い歯科医師人生のスタート台に立ったということに過ぎません。皆さんはこれから生涯にわたって、学んだことのすべてを患者さんのために捧げなければなりません。

皆さんは今日、東京歯科大学を卒業して学生の身分ではなくなりますが、一人の歯科医師として、常に患者さんのことを第一に考えながら、活動していただきたいと思います。

今年の元日の午後4時10分に、石川県能登地方で震度7の巨大地震が発生し、多数の方が被災されました。そして被災者の方々は、今もなお、苦しい生活を強いられています。

また皆さんの中にも、ご自身が13年前の今日、発生した東日本大地震の被災者である人がいます。すべての被災者の方々に改めてお悔やみとお見舞いを申し上げます。しかし、このような能登半島地震の混乱の中にあっても、皆さんの先輩である本学同窓の先生は、ご自身の診療室が大きな被害を受けたにもかかわらず、避難所を回って被災者の口腔健康管理のために尽力されました。とても軽々しく「立派」などという言葉では言い表せません。「患者さんのために」ということが、どれだけ崇高な精神に基づくものであるかを身をもって示していただいていることに、ただただ敬服するばかりです。

「歯科医師たる前に人間たれ」という東京歯科大学の建学の精神を我々に示していただいているこれらの先輩の方々に学び、「人類の福祉に貢献する」という本学の目的を具現化すべく、皆さんがそれぞれの道を確認たる信念を持って進んでほしいと願っています。今後、皆さんは、超高齢社会の中で働く医療人として、多くの職種と協働することになります。社会の一員として、医療チームの一員として、患者さんのために働いてください。そして、歯科界の、ひいては世の中のリーダーとなってくれることを強く期待しています。

皆さんは、1月27日と28日に第117回歯科医師国家試験を受験しました。そして、翌日の1月29日に全体集合日を迎えました。昨年と同じことをしたのですが、私は、その翌日の1月30日に、皆さんがグループ学修で使用した本館12階の教室に行きました。もちろん、誰もいませんでした。電気も点いていない、シーンとした薄暗い部屋でした。皆さんが元気に巣立ったこの教室を見て、皆さんの後輩のためにまた頑張ろうと思いを新たにしました。皆さんも折々の機会に、後輩の応援をしていただけるとありがたいです。先輩が後輩へ、後輩がさらにその後輩へ、東京歯科大学の精神を引き継いでいくことはとても大切なことだと思います。

そして、東京歯科大学は皆さんが卒業した後も、常に皆さんとともにありたいと思っています。歯科医師として成長した姿を見せてくれてもいい、悩みや壁にぶつかって相談に来てくれてもいい。東京歯科大学はいつでも皆さんを歓迎します。皆さんの母校は、常に皆さんをサポートしていきたいと思っています。

129期生の皆さんの輝かしい未来を確信して、祝福の言葉といたします。卒業おめでとう。

祝 辞

学校法人 東京歯科大学
理事長

井出 吉信



第 129 期の皆さん、卒業おめでとうございます。また、今日まで長きにわたり学業を支えてこられたご家族の皆様にも、敬意を込めて心よりお祝いを申し上げます。

皆さんの入学時に、私は学長として「本学のアドミッション・ポリシーである歯科医師としての知識・技能だけでなく、高い倫理観や人間性・協調性を持ち、生涯にわたって自己研鑽に励み、優れた問題発見能力と問題解決能力を持つ歯科医師になるための礎を在学中に習得して戴きたい」と訓示いたしました。学生諸君の努力は無論のこと、大学教職員と保護者の方々の強力なバックアップにより、社会人になる第一歩を踏み出すことができるようになったと思います。

皆さんの在学中にも大学は発展を続け、最先端の地域医療を実践できる歯科医師を養成する千葉歯科医療センターや、市川総合病院内に日本で唯一の口腔がんセンターを有する歯科診療棟と、その治療に欠かせない薬物療法室が完成しました。これらの設備は、研修医としても、また皆さんが生涯にわたり歯科医療を続けていく上でも大いに役立つと思います。

日本の超高齢社会において、健康寿命に対応する歯科医療

はますます重要な使命となり得ます。東京歯科大学はこのような時代の要請に応えた歯科医学教育を行い、少子化などのさまざまな大学運営の課題を乗り越えていきたいと思っております。

建学者である血脇守之助先生が私財全額を寄付し、今日の東京歯科大学がありますが、本学は他に見られるような創始者一族による法人ではありません。まさしく今日まで卒業した同窓生一人ひとりが作り上げた大学です。今後の東京歯科大学の発展のために、同窓生の一員として外部から支えていただけることを願っています。

また、大学に残り、皆さんの中から学長ならびに理事長として大学の運営にあたっていただける方々が輩出されることも切に望みます。

東京歯科大学は、いつまでも君たちをサポートし続けます。同時に、皆さんも大学をサポートして母校を盛り上げていただきたいと思います。これは理事長としてのお願いであります。

卒業おめでとう。

祝 辞

東京歯科大学同窓会
会長

富山 雅史



第129回卒業証書授与式にあたり、同窓会を代表して心よりお祝い申し上げます。

皆様が過ごされた学生生活においては、世界的な新型コロナウイルス感染症蔓延という厳しい状況に遭遇しながらも、見事にそれを克服し、栄えある卒業式を迎えられたことに、大いに敬意を表します。また、今日まで深い愛情を持って子育て賜ったご父兄の皆様、おめでとうございます。

現在、私たちを取り巻く環境は、急速な少子高齢化により、大きく変容しようとしています。国民皆保険制度を根幹とした日本の医療制度を維持し、その上で良質な医療を継続的に国民に提供するためには、日本の人口動態の変化に合わせて医療・年金・介護を含めた社会保障制度全体の再構築が必要となっています。その中で歯科医療の重要性を鑑みた制度設計への対応は、歯科界全体の大きな課題となっています。

東京歯科大学同窓会は、明治28年、本学の建学者である血脇守之助先生の「歯科医師は生涯にわたる研鑽と共に助け合い、人間性を高める必要あり」と同窓会を創設、120年を越え、幾多の同窓生が歯科界のリーダーとして多方面において活躍してまいりました。会員はすべての都道府県にある

同窓会支部に所属し、地域歯科医療に邁進しております。

皆様は本日より東京歯科大学同窓会の会員となります。そして卒業後5年目までは新進会員となります。同窓会は皆様がすばらしい歯科医師人生を歩めるよう全面的に支援しております。症例検討会、卒業研修セミナー、高度な臨床セミナーなどを開催しております。また、同窓会ホームページを通じて新進会員の方からの各種相談にも対応しております。

本学在学時に培った知識と技術を基礎として、卒業後も研鑽を積まれることにより、すばらしい医療人として育ていただき、地域歯科医療の担い手、また歯科医学研究の担い手となられることを期待しております。

そして、皆様には積極的に同窓会活動に参画され、歯科界のリーダーとして活躍されることも本学同窓生の伝統であり、社会的役割の一つと考えております。

皆様の輝かしい未来と母校東京歯科大学のますますの発展、そして本日まで出席の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして祝辞といたします。

本日は誠におめでとうございます。

送 辞

在校生代表
伊藤 優二郎



冬の寒さが和らぎ、陽の光や風の暖かさに春の訪れを感じる季節になりました。このような佳き日にご卒業される皆様、ならびにご家族や関係者の皆様、誠におめでとうございます。在校生を代表し心からお祝い申し上げます。

さて、今日という旅立ちの日に皆様はこの6年間でどのように振り返っておられるでしょうか。入学式から今日に至るまで、多くの仲間、恩師に出会い、勉学やクラブ活動に励み、さまざまな経験をされてきたことでしょうか。しかし、皆様の6年間は決して順風満帆ではなかったと思います。

新型コロナウイルス流行というかつてない未曾有の危機が襲来し、今まで当たり前で過ごして来た日々が失われ、何をやるにしても制限される毎日。そんな日々にもどかしさや、やるせない思いを抱えていながらも終息を信じ、耐え忍んできたかと思えます。我々後輩はその姿を目の当たりにし、憧れ、いつもそのたくましい背中を追いかけてきました。そんな先輩方に少しでも近づけるよう、日々精進して参りたいと思えます。

皆様はこの春、新たなステージへと足を踏み入れます。歴史と伝統あるこの東京歯科大学で培った経験を糧に、どのような局面が訪れても必ず打開し、ご活躍されることを信じております。

昨今を取り巻く環境の中、今日という日を無事迎えられた皆様の新たな門出をお祝い申し上げるとともに、今後のさらなるご活躍とご多幸をお祈りし、送辞とさせていただきます。

答 辞

第 129 期卒業生代表
五十嵐 由貴



冬の寒さもようやく遠のき、やわらかな日差しが心地よく、春の訪れを感じる季節となりました。本日はご来賓ならびに諸先生方、ご家族の皆様のご臨席を賜り、卒業証書授与式を挙行していただけたことに、心より御礼申し上げます。

ただいま一戸達也学長の告辞、井出吉信理事長、富山雅史同窓会長のご祝辞をいただき、身の引き締まる思いであります。また在校生からは、心温まる送辞をいただき、ありがとうございました。

入学式ではじめて、ここ血脇記念ホールを訪れてから今日の卒業式までの6年間を振り返ると、私たちはさまざまなかけがえない経験をしてまいりました。日々の勉学や課外活動、学校行事はもちろんのこと、在学中に先生方から教えていただいたこと、そして友人と過ごす中で得たことは計り知れず、私たちの今後の人生における貴重な財産です。

3年生になると、新型コロナウイルスの流行により講義や実習もオンラインとなり、部活動や学校行事もできず各自が家に籠らなければならなかった時期が続きました。しかし、5年生では無事に登院が始まり、今まで座学でしか学んでいなかったさまざまなことが、実際に目の前で行われ、知識が実践へと段々と結びついていった感動を今でも覚えています。

歯科医師国家試験が1年後に迫った6年生では、学年主任

の阿部伸一先生や副主任の先生方をはじめ、勉強委員長や委員はもちろんのこと、129期全員が卒業試験や国家試験合格に向けて、一丸となり努力した年でした。

私はこれまで何度挫けそうになったかわかりませんが、最後までやり切り、今日この日を迎えることができたのは、これまで指導してくださった先生方や温かく見守ってくれた家族、そしてともに励ましあひながら苦難を乗り越えた友人たちのおかげであり、感謝してもしきれません。

明日から私たち129期は、121名それぞれが自身の将来の夢に向かい歩みはじめます。

さまざまな場所や分野に進んで行くとは思いますが、「歯科医師たる前に人間たれ」という本学の精神を忘れずに、これからも精進してまいります。

卒業生一人ひとりの想いをすべては代弁できていないと思いますが、これからの人生に希望を持ち、応援してくださった皆様への感謝の気持ちを忘れずに、努力していこうという気持ちは同じだと思います。どうかこれからも温かく見守っていただければと思います。そして変わらぬご指導、ご支援の程、どうぞよろしく願いいたします。

私たち卒業生一同、これからも夢に向かって努力し続けることをお約束し、また東京歯科大学のさらなる発展を祈念して、答辞とさせていただきます。

第 129 期 褒賞受賞者

○学長賞(1名)

在学中の学業成績が最も優秀であるので金メダル壺個を授与する。

五十嵐 由貴

○血脇賞(4名)

在学中の学業成績が優秀であるので金メダル壺個を授与する。

廣瀬 優 翟 珉瑜 伊藤 亜弥乃
鳥養 武弘

○井上 裕賞(1名)

在学中の社会・学生生活における活動が顕著であり、併せて学業成績が優等であることを認め金メダル壺個を授与する。

金輪 英俊

○精励賞(10名)

在学期間中精励したので金メダル壺個を授与する。

翟 珉瑜 伊藤 亜弥乃 田中 幸音
大塚 啓史 秋場 優貴 西村 涼穂
林 茜 西山 黎 笠原 千耀
小枝 諒佑

○卒業論文賞(11名)

提出した卒業論文は審査の結果優秀であることを認め金メダル壺個を授与する。

パーシャルデンチャー補綴学

下顎偏心運動時の変位量と咬合接触との関係
落合 研吉

衛生学

電動歯ブラシにつけるフッ化物配合歯磨剤の量は米粒大が適切か？
内田 晃平

摂食嚥下リハビリテーション

Examination of Thickening in Ready-Made Beverages and Liquid Diet
井内 茉莉奈

生物学

ラット歯周組織における血管神経束と Malassez 上皮遺残の立体構造の解析
福島 あかり 石井 華凜 笠原 千耀

スポーツ歯学

ウェアラブル咀嚼回数計測器を用いた咀嚼習慣と体格指数の関連について
安藤 雅人 番園 紘之 松本 慶

歯科放射線学

fMRI を用いた塩味とうま味の再現性実験
大塚 啓史

歯科麻酔学

プロポフォル静脈内鎮静法におけるプロポフォル投与終了後の予測効果部位濃度の変化
— 体重、投与速度、投与時間の影響 —
金輪 英俊



▲卒業証書を受け取る五十嵐さん



▲代表して血脇賞を受け取る廣瀬さん



▲同窓会会員章を授与された内田さん



▲井上 裕賞を受賞した金輪さん



▲父兄会より記念品を受け取る井内さん



▲大学へ記念品を贈呈する松本さん



▲司会の笠原学生部長



▲会場の様子



▲恩師とともに記念撮影

第 129 回卒業証書授与式挙



令和6年度東京歯科大学入学式 挙行

2024年4月5日(金)午後1時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、令和6年度東京歯科大学入学式が挙行された。

たくさんの保護者の祝福を受け、フレッシュな入学生が堂々と血脇記念ホールに入場し、会場は温かな拍手に包まれた。

また、井出吉信理事長、一戸達也学長をはじめ、法人役員、大学役職者、名誉教授、教職員、父兄会役員および同窓会役員も式に列席し、新入生の入学を祝福した。

式は笠原正貴学生部長の開式の辞から始まり、国歌の斉唱、続いて阿部伸一教務部長が新入生128名と第2学年の編入学生9名を、一人ひとり呼名し、紹介を行った。続いて、一戸学長より訓示が述べられ、井出理事長、富山雅史同窓会長より祝辞を頂戴した。次に、新入生代表の山科明日美さんが宣誓を行った。その後、高橋利佳さんに徽章が授与され、会場内の新入生や保護者に披露された。最後に会場内全員で校歌を斉唱し、滞りなく閉式した。



▲訓示を述べる一戸学長



▲祝辞を述べる井出理事長



▲祝辞を述べる富山同窓会長



▲徽章を授与される高橋さん



▶入学式の様子

訓示

東京歯科大学
学長

一戸 達也

今日、晴れてここに、私たち東京歯科大学の一員となった135期生128名と編入生9名の皆さん、ご入学おめでとうございます。東京歯科大学を代表して、皆さんを歓迎します。

新入生の保護者の皆様には、お子様たちの立派な姿を目の当たりにされ、さぞやお喜びのことと存じます。誠におめでとうございます。

皆さんは、歯科医師になることを目指して本学に入学しました。皆さんがイメージする歯科医師とはどのような職業でしょうか。町の歯科医院でむし歯や歯周病の治療をしたり、入れ歯を作ったり、あるいは歯列矯正をしている人たちでしょうか。それとも、大学病院でがんなどの大きな手術をしている口腔外科医のような人たちでしょうか。私自身も東京歯科大学の卒業生ですが、卒業後40年以上にわたって、口腔外科手術を受ける患者さんなどに全身麻酔をかける仕事を続けてきました。これもまた歯科医師の仕事です。

まず知っていただきたいのは、歯科医師は、医師と同様に、治療の目的で、患者さんの同意のもと、たとえば歯を削るとか、たとえば歯を抜くとか、あるいは顎の骨を切除するとか、合法的に患者さんの身体に傷を負わせることができる、極めて責任の重い国家資格です。歯科医師免許なしにこのようなことを行えば、当然、傷害罪となります。歯科治療で患者さんが死亡するなどということは、皆さんはとても想像できないかもしれません。しかし現実には、あくまでも推計ですが、医療過誤の有無は別として、1年間に数名程度の患者さんが歯科治療を契機として亡くなっていると推測されています。自分が治療している目の前の患者さんが突然亡くなるということが現実起こるのです。このような事故は絶対に起こしてはなりません。

皆さんは、超高齢社会という言葉聞いたことがあると思います。世界一の高齢国家であるわが国は、2007年に65歳以上の高齢者が人口の21%を超えて超高齢社会となり、今年国民の30%が高齢者になると予測されています。このような状況にあるわが国では、自分の足で歯科医院に通える健康な患者さんだけを相手にしては、歯科医療の体制は成り立ちません。身体的、知的あるいは精神的などさまざまな障がいのある患者さんや、数多くの全身的な疾患を抱えて要介護状態となっている患者さんを対象として、患者さんのご自宅や入所施設を歯科医師みずからが訪問し、その場で歯科治療を行わなければならない場面が数多く出てきます。

これらの患者さんの歯科治療の際には、ごく簡単な治療行為が患者さんの全身の状態を容易に悪化させる可能性があります。このことは、近々発表される、これからの社会を見据えた厚生労働省の「歯科医療提供体制等に関する検討会」の中間とりまとめにおいても強調されていますが、歯科医師はすべての患者さんに安全に質の高い歯科医療を提供できなければなりません。

歯科治療だけではありません。おいしく食事をし、きちんと飲み込める機能を維持できることは、わが国の死因の上位にランクされる誤嚥性肺炎の予防につながります。歯周病の進行を予防することによって、動脈硬化や心臓病など、数多くの全身の病気の予防につながります。口腔の健康を維持することによって、全身の健康の維持・向上に繋がるのです。このような領域でも、歯科医療職種だけでなく医師や看護師など多くの職種と連携しながら、歯科医師としての役割を果たしていかなければなりません。

皆さんは、このような多様な役割を果たす、そして重い責任を持つ歯科医師になろうとしているのです。このためには、皆さんはたくさんの勉強をする必要があります。そして、その勉強は大学6年間だけに留まるものではありません。国家試験に合格すれば勉強が終わりというわけではありません。卒業後も、歯科医師としての業務を行うかぎり、生涯にわたって勉強しなければなりません。すべては患者さんのためです。

実際の臨床の現場では、教科書に書かれた理論的なベストアンサーを患者さんに提供することが困難で、ベターアンサーを選ばざるを得ない状況は少なくありません。しかし、ベストアンサーがわからなければ、皆さんの選んだ選択肢がベターアンサーかどうか判断できません。だからこそ、皆さんはまずはベストアンサーを導き出すために、正しい科学的根拠に基づく知識と技能を身につけることが大事なのです。そのためにたくさんの勉強をし、経験を積まなければなりません。東京歯科大学は皆さんの勉強に対して最善の環境を提供すべく、水道橋病院、千葉歯科医療センター、そして市川総合病院という、それぞれの特色を持つ最新の教育施設を活用しながら、皆さんの勉強をサポートします。

しかし、東京歯科大学は皆さんに勉強だけを求めるものではありません。短期海外留学である Elective Study Program、クラブ活動などの課外活動、千代田区や千代田区内大学との連携事業への参加、県人会などを通じた教職員や上下級生と

の交流、友人とのコンパなど、大学生としての充実した時間を過ごし、豊かな人間性を持つ医療人に育ててほしいと願っています。文武両道、これが東京歯科大学が求める理想的な学生像であり、建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」を具現化することに繋がります。そして将来、歯科界の、さらにはわが国のリーダーとなるべく成長してほしいと

願っています。それこそが、東京歯科大学に入学した皆さんに対して世の中が期待していることだからです。

皆さんが、東京歯科大学に入学した誇りを胸に充実した大学生を送り、将来のわが国のリーダーとなって活躍してくれることを強く期待し、訓示といたします。

入学おめでとう。

祝 辞

学校法人 東京歯科大学
理事長

井出 吉信

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご列席の保護者の皆様には、学校法人東京歯科大学を代表して、こころよりお祝い申し上げます。皆さんは本学に入学するまでの受験勉強から解放され、少しの不安感と、これから始まる大学生活への楽しみと期待でワクワクしていると思います。

私は本学の卒業生で、今から58年前に入学いたしました。私の東京歯科大学に入学するきっかけは、高校の先輩の歯科医師の子弟から「自分は新聞記者志望なので、君が歯科医師にならないか」と勧められ、深く考えずに受験し入学しました。入学式後のクラスでのオリエンテーションを受けていると、同級生は同窓関係者や医療関係のご子息が大半でした。何となく「この大学に入学してよかったんだろうか」と少し不安になったことを今でもはっきりと覚えています。入学後はよき教職員や先輩に指導を受け、卒業時には東京歯科大学に入学したことが私の人生にとって最高の選択であったと確信できるようになりました。その結果、卒業後、本学を愛するあまり、いまだに52年間、教員、法人職員として奉職しております。

これから過ごす6年間は、膨大な知識を学んでいくために忙しく、文系大学に進学した高校の友人と比べて、時にはめ

げることもあるかもしれません。しかし皆さん自身で選んだ道です。そのことを心に留めて勉学に励んでください。

人生の中でこの6年間はまさしく青春真っただ中です。学生生活を楽しむことも必要です。クラブ活動や社会のさまざまな活動に参加し、よき仲間を作ってください。これにより医療人にとってもっとも大切な人格と優しさを持った人間性が育つのです。

最後に、保護者の皆様をお願いします。お子様はすでに成人です。お子様の教育に親の出ることはないとお思いでしょうが、歯科医師を目指し飛躍する学生にとってサポーターの存在が非常に重要になります。私は埼玉出身ですが、サッカーの浦和レッズのサポーターは強力です。サポーターの応援なしでは選手も張り切りません。保護者の皆様におかれましては、今後ともよくお子様を見守っていただくと同時に、大学へのご協力をよろしくお願い致します。本学における学生教育にお気づきの点がございましたら、ご遠慮なくお申し出ください。

新入生諸君の今後ますますの活躍を祈念し、祝辞といたします。

本日はご入学、誠におめでとうございます。

祝 辞

東京歯科大学 同窓会
会長

富山 雅史

新入生の皆様、また保護者の皆様、東京歯科大学入学、誠におめでとうございます。母校同窓会を代表しまして、心からお祝い申し上げます。

本学は、明治23年高山歯科医学院として設立され、それをもととして日本の近代歯科医学、医療を確立した本学の建学者である血脇守之助先生によって、東京歯科大学専門学校、そして東京歯科大学となり、日本でもっとも歴史と伝統を誇る歯科医学教育および研究の先駆として、広く世界に向かって発展してまいりました。

血脇守之助先生は「歯科医師は生涯にわたる研鑽と、共に助け合い、さらに人間性を高めることが大切である」として、明治28年東京歯科大学同窓会を創設され、さらに日本歯科医師会も創設されました。

現在の歯科医療は単に口腔だけにとどまらず、全身の健康とも深く関連し、今日の高齢社会において健康寿命の延伸に多大なる貢献をしております。このように、現在の歯科医療と社会との関連は顕著であります。学生生活の歯科医学の学習はもとより、より広い視野と社会性、さらに人間としての品格を養うことが涵養です。そのためにも生涯にわたる友人を作り、先輩、後輩との結びつきを深めることが必要となります。

皆様は本日より、本学同窓会の準会員となり、卒業と同時に生涯にわたって同窓会の会員となります。現在、本学同窓生は全国に9,200余名おり、全都道府県に同窓会支部があります。全国にあります同窓会支部は学生の皆様、さらにご父兄との連携を心から歓迎しております。同窓会本部にお聞きいただければ、それぞれの地域支部との連絡が取れますので、ぜひ学生時代からの交流を図っていただくようお願い申し上げます。

この6年間の充実し、光輝く大学生活となることを心から願って、お祝いの言葉といたします。

本日はご入学誠におめでとうございます。

新入生宣誓

新入生代表
山科 明日美



私たち新入生一同は、本日ここに入学式を迎えることができ、感激と希望に満ちあふれております。ただいま、学長先生よりご懇篤なるご訓辞を賜り、伝統ある本学の誇りを胸に刻み、諸先生方をはじめ、先輩方のご指導の下、勉学に励み、人格の陶冶に努め、一人ひとりが抱いている夢の実現に向け、日々努力、精進を重ねることを誓います。

退職のご挨拶



歯内療法学講座

古澤 成博

この度、2024年3月31日をもちまして定年退職をいたしました。例えば1977（昭和52）年に本学に入学以来46年間、大変お世話になりました。私の学年（88期生）は、市川の進学課程から旧水道橋校舎に学んだ後に、新築の千葉校舎をはじめ使用した学年です。水道橋と千葉の真砂で学んだことから、同窓会名も「水真会」と名付けられました。そのピカピカだった思い出深き千葉校舎も、今や解体されて跡形もなく更地になっていることは、時の流れの無常さを感じて感慨深いものがあります。

私の父が口腔外科の高橋庄二郎教授の下で論文を執筆していたことなどから、学生時代は私も口腔外科に残るつもりでございましたが、登院実習で歯を残すことに興味を持ち、急遽、浅井康宏教授が主宰していた歯科保存学第一講座（現歯内療法学講座）の大学院生として入局することになりました。以後日々研究に励み、リン酸カルシウム系セラミックのヒト歯髄に対する影響についての臨床病理学的研究で学位論文を仕上げました。大学院の研究を通じて基礎的学問である病理学の奥深さを体験すると同時に、数多くの臨床症例に遭遇することによって臨床のおもしろさも勉強することができました。

学年副主任など学生教育にも多く携わりながら、忙しくも楽しい日々を過ごしてございましたが、2005年に水道橋校舎の教育主任として口腔健康臨床科学講座に移動となり、総合

歯科の科長としても本当に多くの症例を体験させていただくと同時に、臨床研修委員長として多くの臨床研修歯科医たちと一緒に臨床を学んで後輩たちが巣立つのを見守ることができました。この後輩たちとはいまだに繋がりがあり、彼らが開業してからも困った症例の相談などをメールで質問してきてくれるなど、私にとっては大きな財産にもなっています。その後、縁があって歯科保存学講座（後に歯内療法学講座）の主任教授を拝命し、再び歯内療法学について第一線で臨床・教育・研究に携わることができ、これに勝る幸せはございませんでした。また、122期生の学年主任も務めさせていただきました。この122期生の方々も、これからも大事にしたい私にとってかけがえのない財産であります。

このような数々のよい思い出を残すことができましたのも、歴代の理事長・学長をはじめ、各講座の先生方、事務やコメディカルの方々など、すべての本学関係者のご支援の賜物と心より感謝しております。

4月より嘱託教員として、歯内療法学講座の客員教授ならびに短期大学の特任教授を拝命しましたので、今後しばらくは微力ながら引き続き教育・臨床・研究のお手伝いをさせていただきます所存です。

末筆になりますが、本学の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして、定年の挨拶とさせていただきます。

略 歴

- 1983年 3月 東京歯科大学卒業
- 1983年 4月 東京歯科大学歯科保存学第一講座入局
- 1987年 9月 東京歯科大学大学院歯学研究科修了
- 1988年 4月 東京歯科大学歯科保存学第一講座助手
- 2005年 3月 東京歯科大学歯科保存学第一講座講師
- 2006年 6月 東京歯科大学口腔健康臨床科学講座准教授
- 2013年 4月 東京歯科大学歯科保存学講座主任教授
- 2017年 4月 東京歯科大学歯内療法学講座主任教授
- 2024年 4月 東京歯科大学短期大学特任教授
東京歯科大学歯内療法学講座客員教授

主な学会活動

- ・日本歯科保存学会 理事、専門医・指導医
- ・日本歯内療学会 代議員、専門医・指導医
- ・日本顕微鏡歯科学会 常任理事、代議員、認定医
- ・関東歯内療学会 理事
ほか



歯科社会保障学

上條 英之

2014年4月から10年間、本学の教員として従事させていただき、このたび無事定年退職を迎えられましたことを皆様にご礼申し上げます。

私は1983年に東京歯科大学を卒業後、現衛生学講座に大学院で在籍し、1987年に当時の厚生省に入省しました。歯科技官として27年間従事し、本学の出身者では2010年に約32年ぶりに5人目のわが国のChief dental officerとなり、2013年末に退官し、2014年から本学の教養課程に配置され歯科社会保障学を教授するようになりました。そして教育の傍ら、公益財団法人8020推進財団に嘱託で従事しました。

2014年から国の産業歯科保健の調査研究を担い、大学院生の教育が直接できない教養の教員でしたが、衛生学講座の杉原直樹教授のご支援もあり、なんとか政策研究の推進への対応ができました。定年の2年前にようやく科研費の採択もでき、研究者が非常に少ないため、わが国の産業歯科保健における政策研究の分野で事実上第一人者になりました。この他、歯科大学ではじめて単独でNDBを扱い、知見を世界に公

表し、日本歯科医療管理学会の医療保険の技術提案に生かされ、令和6年度診療報酬改定で提案技術が採択されました。退職後は今後の業務展開を踏まえ、公的研究の残務対応のためしばらく大学に通う予定です。

ところで、私も浅学ながら過去の歴史を調べました。本学の建学者である血脇守之助先生は旧歯科医師法の制定の立役者で、長いあいだ日本歯科医師会会長を兼任し、健康保険制度を含めわが国の歯科医療制度の推進をされてきました。私が厚生労働省の医政分野で歯科口腔保健法制定などに尽力できたのも、血脇先生の敷いたレールがあったからです。「歯科医師である前に人間たれ」の精神での足跡をたどると、これから本学の果たすべき役割と期待が示唆されていると思います。

世の中が大きく変わる時代、今日の常識は明日の非常識で、歯科の業界でもある程度同様ではないかと思いますが、今後、本学が一致団結し世界の歯科医療の発展にますます尽されていくことをお祈り申し上げまして、退職の挨拶とさせていただきます。

略 歴

1983年 3月 東京歯科大学歯学部卒業
1987年 5月 東京歯科大学大学院歯学研究科修了(口腔衛生学専攻)
1987年 1月 厚生省入省(厚生技官として採用 健康政策局歯科衛生課に配属 歯科衛生係長を拝命)
1988年 7月 厚生省健康政策局歯科衛生課課長補佐
1994年 4月 埼玉県衛生部保健予防課副参事
1996年 10月 厚生省保険局医療課医療指導監査室特別医療指導監査官
1998年 7月 厚生省健康政策局歯科保健課課長補佐
2004年 4月 国立長寿医療センター運営部政策医療企画課長
2004年 9月 厚生労働省保険局歯科医療管理官
2010年 7月 厚生労働省医政局歯科保健課長
2014年 4月 東京歯科大学教養課程歯科社会保障学教授
公益財団法人8020推進財団嘱託
2024年 4月 東京歯科大学客員教授

主な学外活動

・公益財団法人8020推進財団嘱託
・日本歯科医療管理学会理事(医療保険・地域医療担当)
・ICD日本部会財務委員会委員長
・関東甲信越歯科医療管理学会副会長(学術担当)
・公益財団法人8020推進財団調査研究事業等検討会委員
・日本口腔衛生学会代議員



語学研究室

今井 肇

私は、千葉県公立高等学校の校長として定年退職を迎えた後、1年間の私立高校勤務を経て、2020年4月に東京歯科大学教養講座の教員として着任しました。それから4年間、勉学意欲にあふれる第1・2学年の学生諸君に医学・医療英語、歯科医学英語を教える機会を得られたことは、英語教師として望外の幸せでした。学生諸君が意欲的に授業に参加してくれたことも教師冥利につきます。このたび2024年3月末日をもって定年退職を迎えるにあたり、お世話になりました井出吉信理事長、一戸達也学長、教養講座の先生方、すべての皆さまに心より感謝申し上げます。

自分の教師人生は、千葉県内の3つの高校で教鞭を執った英語教師としてのキャリアから始まりました。続く千葉県教育委員会の指導主事時代は、主に小学校英語、中学校英語に携わり、授業を数多く参観し、指導助言に関わりました。

千葉県成田市の小中高連携事業の運営委員をはじめ、国や県の指定事業の推進にも力を注ぎました。そして教員人生の集大成として、名門の東京歯科大学で大学英語にも携わることができ、小・中・高・大の英語教育に関わりたいという自分の願いを実現できたことはこの上ない喜びです。

苦勞したことも多々ありました。赴任した2020年はちょうどコロナ禍の真っ只中。授業はオンラインで実施され、私自身、Google Classroomを使うのはじめてで大変苦戦しました。パソコンとモニターを使っの授業になかなか適応

できず、まさに大海原に船を漕ぎ出すような心境で、試行錯誤の連続でした。多くの失敗をしながらも、「学生と教員、学生同士のコミュニケーションがなければ語学の授業とは言えない」との信念のもと、オンライン授業でのグループワークや会話試験を取り入れたことも、準備の苦勞は相当あったものの、今となっては懐かしい思い出です。学生諸君とのコミュニケーションを密にすることは、私が一貫して取り組んできたことであり、学生と教員相互のコミュニケーションを十分取ることが充実した指導につながるの思いは生涯変わりません。

ご挨拶の最後に、私が大事にしている言葉を紹介させていただき、次代の歯科医療をリードする学生諸君にメッセージとして贈りたいと思います。

Anyone who stops learning is old, whether at twenty or eighty.

Anyone who keeps learning stays young. The greatest thing in life is to keep your mind young.

— Henry Ford (father of the U.S. automotive industry)

20歳だろうが80歳だろうが、学ぶことをやめた人は老いている。学び続ける人は若さを保っている。人生でもっとも重要なのは、心を若く保つことである。

東京歯科大学のますますのご発展を祈念して、お礼の言葉とさせていただきます。

略 歴

| | |
|-------|--|
| 1981年 | 千葉県立幕張西高等学校教諭 |
| 1986年 | 千葉県立千葉西高等学校教諭 |
| 1993年 | 千葉県高等学校教科研究員(外国語)(2年間) |
| 1996年 | 英語教育指導者講座参加(主催：文部省) |
| 1997年 | 千葉県立千葉高等学校教諭 |
| 2000年 | 英語担当教員米国長期研修(主催：文部省) (サウスカロライナ大学、カリフォルニア大学アーバイン校) |
| 2004年 | 千葉県教育委員会指導主事 |
| 2010年 | 千葉県立成田北高等学校教頭 |
| 2013年 | 千葉県立成田国際高等学校教頭 |
| 2016年 | 千葉県立土気高等学校校長 |
| 2016年 | 千葉県高等学校教育研究会英語部会副会長(2018年度末まで) |
| 2018年 | 年度末をもって千葉県公立学校長を定年退職 |
| 2019年 | 千葉敬愛高等学校教諭 |
| 2020年 | 東京歯科大学語学研究室准教授 |
| 2023年 | 東京歯科大学語学研究室教授 |

主な学外活動

- ・ JACET(The Japan Association of College English Teachers)会員
- ・ 特定非営利法人フリースクールリフレーム(千葉県成田市)会員

■ 就任のご挨拶



口腔科学研究センター所長

溝口 利英

この度、2024年4月1日付で口腔科学研究センター所長を拝命いたしました。これまでの本学諸先生方のご尽力により発展してきた本研究施設の運営に携わる職務の重大さに、改めて身の引き締まる思いであります。口腔科学研究センターの皆様方と協力しつつ、職務を全うしてまいります。

口腔科学研究センターは、1996年に全学的な研究施設として本学に設置され、これまで優れた研究成果の創出の場として活用されてまいりました。また最近では、本研究施設を拠点として全学的に推進する研究プロジェクトである「顎骨疾患プロジェクト(2017年～2022年度)」、そして「ウェルビーイングプロジェクト(2023年～現在)」を実施し、本学独自の新規治療法の開発に繋がるイノベーションシーズの創生を目指しています。このような研究プロジェクトの成功の鍵として、基礎と臨床研究の垣根を越えた包括的な研究推進の実現があげられますが、本研究施設は、このような異分野連携の促進に極めて適した集学的研究施設であります。今後も、連携研究促進の場として整備し、世界に通用する質の高い研究成果を発信できる環境作りに努めてまいります。また、今後の本学のさらなる研究力向上のために、口腔科学研究センターを主軸とした若手・次世代研究者の育成に取り組むことが極めて重要な課題であると考えております。現在、ウェルビーイングプロジェクトの活動の一環として、若手教育支援「若手サイエンスアカデミー」を実施し、最新の研究論文および本学で論文化された研究成果を共有する機会を設けております。今後もさらなる工夫を凝らし、本研究施設を有効活用できる次世代研究者の育成に取り組んでまいります。

口腔科学研究センターを、歯科医学の発展に繋がる優れた研究成果を発信できる研究施設としてさらに発展させることができるよう鋭意努力する所存でございますので、今後ともご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



図書館長

杉原 直樹

この度、2024年4月1日より図書館長を拝命いたしました杉原です。伝統ある本学の図書館長という大役に身の引き締まる思いしておりますが、精一杯の努力をしております。

現在、本学は3校舎それぞれに図書館を配置しています。水道橋校舎(水道橋校舎本館図書館、水道橋校舎新館図書館、さいかち坂校舎図書分館)、市川総合病院図書分館、千葉校舎図書館の5か所です。大学図書館の業務内容(文部科学省、大学図書館の整備についての審議まとめ)としては、学習支援および教育活動への関与(利用者教育)、研究活動に即した支援と知の生産への貢献(資料受入、機関りポジトリ、文献複写、代行検索)、コレクション構築と適切なナビゲーション(目録データ整備、電子ジャーナル整備、大学資料室)、他機関・地域などとの連携ならびに国際対応(日本医学図書館協会、千代田区および千代田区図書館との連携事業推進)があげられ、これらについて、専任職員4名、嘱託職員1名、パート職員4名が対応しています。

図書館で利用できる資料としては、図書約20.5万冊(そのうち専門医歯学書約6.5万冊)、学術雑誌約10万冊(タイトル数:約4,700誌)、電子ジャーナル約3,900誌(契約タイトル数)があります。また、新刊および寄贈による図書受け入れのための選択は図書委員(私を含め10名の委員)による協議を毎月実施し、それをもとに約40冊の新作図書を図書館長が決定しています。

大学図書館に求められる機能・役割として、今後さらに多様化・高度化する業務や新たな対応が求められます。これらに対して、図書館職員の皆様と一緒に取り組んでまいりたいと存じます。また利用者のご意見やご要望を聞きながら、今後の図書館業務の改善、向上に役立てていきたいと考えています。

図書館長として図書館の業務を通じ、本学の教育・研究・臨床の発展・向上に邁進してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

教授就任のご挨拶



口腔顎顔面外科学講座

渡邊 章

この度、2024年4月1日付で、口腔顎顔面外科学講座教授を拝命いたしました。身に余る光栄でありますとともに、新たな責務に身が引き締まる思いでもあります。井出吉信理事長、一戸達也学長をはじめご推挙賜りご選考くださいました先生方に厚く御礼申し上げます。

私は、2001年に東京歯科大学を卒業後、口腔外科学第Ⅱ講座に入局し、2002年には長崎大学医歯薬学総合研究科原研遺伝で口唇裂・口蓋裂の原因遺伝子研究を行い、新川詔夫教授、吉浦孝一郎教授をはじめ多くの先生方のご指導のもと大学院を修了いたしました。2006年には埼玉小児医療センターの形成外科、麻酔科で口唇裂・口蓋裂の手術手技や周術期管理を学び、2008年に東京都立府中病院歯科口腔外科（現多摩総合医療センター）で口腔がんの治療や総合病院での歯科の役割について学びました。2017年にはドイツのチュービンゲン大学口腔顎顔面外科学講座、BG外傷病院への留学を経て本学に戻ってまいりました。現在は、口唇裂・口蓋裂や顎変形症の教育、研究、手術を専門に職務に当たっております。

100年間脈々と続く本学の口腔外科の教えであります《物事を深く究め、手術にあたっては隅々まで十分注意が行き届くこと、そして科学的根拠なくしてメスを振るうべからずの「深研精到」をモットーにscientific - surgeonの育成に努力する。》この口腔外科マインドを胸に教育・研究・臨床と邁進し、多くの人材を育成していく所存であります。本学の発展に少しでも寄与できればと考えておりますので、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく御礼申し上げます。



市川総合病院産婦人科

内田 浩

2024年4月1日付で市川総合病院産婦人科教授を拝命いたしました。就任にあたりまして、井出吉信理事長、一戸達也学長をはじめ選考委員の先生方には心より御礼申し上げます。誌面をお借りしましてご挨拶を申し上げます。

私は、1994年慶應義塾大学医学部を卒業し、慶應義塾大学病院と大田原赤十字病院（現那須赤十字病院）で研修医・専修医を修了いたしました。大学院では、もっぱら「細胞はどのように動くのか」という研究をしておりました。その後、宇都宮済生会病院を経て、慶應義塾大学病院産婦人科学教室に帰室しました。大学では思春期から生殖世代までの診療に携わり、月経のトラブルにはじまり、妊娠、出産、閉経までのwoman's healthと向き合ってきました。診療とともに、妊娠成立の最大のハードルといわれる着床現象についての研究も並行して行っておりました。同時に教育分野での仕事を任されることが多く、医学生、初期臨床研修医、専修医の実習や研修管理を担当してまいりましたが、若者から得るところもたくさんあり、お互い楽しみながら学んできたように思います。

これまでの経験を活かしまして、当科の後輩医師たちとともに、日々の研鑽を通じてお互い成長してまいりたいと思います。働き方改革が本格始動しました本年ですが、工夫を凝らしながら職場環境を整えて、その先に患者さんの笑顔が繋がっていることを信じまして、チームの笑顔をより多く創っていこうと思っております。何分にも微力ではございますので、今後とも変わらぬご指導を賜れますよう、お願い申し上げます。

准教授就任のご挨拶



水道橋病院眼科

太田 友香

この度、2024年4月1日付で水道橋病院眼科准教授を拝命いたしました。就任にあたり、井出吉信理事長、一戸達也学長をはじめ選考委員会の先生方に深く感謝申し上げます。

私は2012年に名古屋市立大学医学部を卒業し、日本鋼管病院での初期研修の後、2014年に慶應義塾大学医学部眼科学教室に入局いたしました。はじめて当院に赴任いたしましたのは2016年1月で、現名誉教授であるビッセン宮島弘子教授から白内障手術についてご指導いただきました。2年半の研修後、2018年7月から慶應義塾大学にて緑内障フェローとして勤務いたしました。この間も、先生方のご配慮により当院で非常勤医師として外来診療や手術だけでなく、多焦点眼内レンズの研究を継続させていただきました。そして、2020年4月に当院に再赴任してからは、白内障に関する診療と研究に並行して、緑内障手術と研究を慶應義塾大学で行ってまいりました。2022年からは当院でも緑内障手術を開始し、緑内障外来も立ち上げさせていただきました。

現在の主な研究テーマは、緑内障眼における多焦点眼内レンズや白内障手術の影響です。高齢化に伴い緑内障や白内障患者が増加していることから、今後本分野における需要は増加していくと考えられます。このため、当院のこれまでの専門性を生かしつつ、緑内障の研究を行っていければと考えています。

水道橋病院の先生方には、日ごろより歯科の患者様を当科にご紹介いただき心より御礼申し上げます。スタッフ一同患者様に寄り添った医療を心がけており、微力ではございますが、地域の皆様の眼の健康に貢献できればと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



市川総合病院放射線科

福田 一郎

この度、2024年2月19日付で市川総合病院放射線科准教授を拝命致しました。井出吉信理事長、一戸達也学長、西田次郎市川総合病院長、選考委員会の先生方、ご推薦いただきました東京慈恵会医科大学放射線医学講座主任教授の尻博也先生に心より感謝申し上げます。

私は1997年に東京慈恵会医科大学医学部医学科を卒業し、同大学附属病院で2年間の研修後、まだ影の存在であった放射線治療を専門とすることを決意しました。その後、大塚にあった日本で一番最初に放射線治療が行われたがん研究会附属病院放射線科、新規に開設されたサイバーナイフをはじめとする最新鋭の機器と緑の大自然に満ち溢れていた埼玉医科大学国際医療センター放射線腫瘍科で多くの先輩方にご指導いただき、研鑽を積みました。さらに、2010年には国立病院機構災害医療センターに移り、一人医長として、地域医療における放射線治療のあり方を習得しました。この度、市川総合病院には2度目の勤務になります。

放射線治療は多くの悪性腫瘍を扱いますが、市川総合病院の口腔がんの多さは他病院では体験できないものです。今更ながら貴重な体験をさせていただいております。専門性の高くかつ優しい各診療科の先生方と協力し、安全で正確な放射線治療を提供し、地域医療に貢献していきたいと思っております。また教育では、質の高い医療を提供できる歯科医師の育成に尽力したいと思っております。東京歯科大学や市川総合病院の発展のため精進してまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

■ 一般選抜(Ⅰ期)・大学入学共通テスト利用選抜(Ⅰ期)実施

2024年2月2日(金)午前9時より、2024年度一般選抜(Ⅰ期)・大学入学共通テスト利用選抜(Ⅰ期)が水道橋校舎本館およびTKP新大阪ビジネスセンター、TKP博多駅前シティセンターの3会場において実施された。一般選抜では

294名、大学入学共通テスト利用選抜159名(併願含む)の志願者があった。

2月6日(火)夕方に本学ホームページにて合格者が発表され、合格者に合格通知が発送された。

■ 2023年度第8回水道橋病院教職員研修会開催

2024年2月20日(火)午後6時より、2023年度第8回水道橋病院教職員研修会がオンラインにて開催された。

今回は、「インシデント・医療安全推進週間の結果報告、医療安全における心理的安全性について」と題して、医療安全管理室室長の江橋延江参与による講演が行われた。医療安全推進週間の結果の解説からはじまり、心理的安全性の概念、誤解をあげ、真の心理的安全性について説明があった。

最後に「医管について」と題して診療録指導委員会委員の吉田香織講師による講演が行われた。対象疾患、医管を算定できる歯科治療、算定できない歯科治療をあげ説明された。

今回の研修会は、医療安全を意識した行動や医管に関する理解が深まり、教職員が正確に認識することに繋がる大変有意義な研修会となった。

■ 2023年度口腔科学研究センターワークショップ開催

2024年2月22日(木)午後4時より、水道橋校舎新館協記念ホールにおいて、2023年度口腔科学研究センターワークショップ開催された。

新谷誠康口腔科学研究センター副所長の司会で開会し、一戸達也学長よりご挨拶をいただいた後、東俊文口腔科学研究センター所長から、ワークショップの概要について説明が行われた。

引き続き、2023年度ウェルビーイングプロジェクトの進捗・成果報告が、プロジェクト推進委員長の溝口利英教授(口腔科学研究センター)と各グループリーダーである

大野建州准教授(口腔科学研究センター)、澁川義幸教授(生理学講座)、菅原圭亮准教授(口腔病態外科学講座)、溝口教授(口腔科学研究センター)から行われた。

最後に、学長奨励研究助成採択者の佐藤涼一講師(衛生学講座)、北村友里恵助教(歯周病学講座)、黄地健仁助教(生理学講座)、コア研究部門の黄地助教(生理学講座)、中村貴講師(生化学講座)、今村健太郎講師(歯周病学講座)の研究成果報告が行われ、笠原正貴実験動物施設管理部長の閉会の辞により終了した。

当日は109名が参加し、活発な論議が繰り広げられた。

■ 一般選抜(Ⅱ期)・大学入学共通テスト利用選抜(Ⅱ期)・編入学試験B、学士等特別選抜B実施

2024年3月9日(土)午前9時より、2024年度一般選抜(Ⅱ期)・大学入学共通テスト利用選抜(Ⅱ期)および編入学試験B、学士等特別選抜Bが水道橋校舎本館において実施された。一般選抜では178名、大学入学共通テスト利用選抜43

名(併願含む)の志願者が、また編入学試験Bでは8名、学士等特別選抜Bでは3名(併願含む)の志願者があった。

3月12日(火)夕方に本学ホームページにて合格者が発表され、合格者に合格通知が発送された。

東京歯科大学リカレント教育セミナー開催

2024年3月3日（日）午後1時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、東京歯科大学リカレント教育セミナー「今どきの目で口腔粘膜を見直そうー口腔粘膜からみる医科との診療連携と歯科診療ー」が、東京歯科大学同窓会の共催のもと開催された。東京歯科大学研究プロジェクト（ウェルビーイングプロジェクト）では、顎骨疾患プロジェクト（2017～2022年度）から引き続き、大学と同窓会を中心としたリカレント教育セミナーを開催している。本教育セミナーは、基礎と臨床のそれぞれの立場から最新の知識を学べる双方向性の情報交換の機会を設け、進歩する研究と医療技術に対応し、日々の臨床と研究活動に還元することを目的としている。

今回は、片倉 朗副学長により「口腔粘膜」に関するシンポジウムが企画され、本領域における基礎と臨床のエキスパートによる講演が行われた。一戸達也学長と富山雅史同窓会長による開会の辞の後、片倉副学長よりシンポジウムの目的と概要の説明があった。引き続き、座長の菅原圭亮准教授と田坂彰規准教授による進行のもと以下の講演が行われ、活発な質疑応答が繰り広げられた。

総合討論ではさらなる意見交換がなされ、山本 仁副学長による閉会の辞で会が締めくくられた。参加者120名以上（会場とオンラインの合計）と大盛況であり、日常臨床のさらなる発展と大学における新たな研究シーズの創生が期待できる有意義なりカレント教育セミナーとなった。

| | |
|--|------------------------------|
| 培養口腔粘膜の角膜移植への応用 | 山口剛史教授(市川総合病院眼科) |
| 掌蹠膿疱症患者における口腔内細菌と口腔内サイトカインの解析研究 | 河野通良准教授(市川総合病院皮膚科) |
| インプラント周囲軟組織の遺伝子解析からインプラント周囲炎の予防へ | 佐々木穂高教授(口腔インプラント学講座) |
| 口腔粘膜の機能：Revisiting | 澁川義幸教授(生理学講座) |
| 局部床義歯の印象採得における顎堤粘膜の被圧変位に対する考え方 | 田坂彰規准教授(パーシャルデンチャー補綴学講座) |
| インプラントオーバードンチャー (IOD・IARPD) における顎堤粘膜被圧変位特性の捉え方 | 藤関雅嗣臨床教授(水道橋病院補綴科/藤関歯科医院・院長) |

▲シンポジウムでの演題および演者



▲一戸学長の挨拶



▲訓座長の田坂准教授、菅原准教授（左から）



▲富山同窓会長の挨拶



▲演者の山口教授、河野准教授、佐々木教授、澁川教授、藤関臨床教授（左から）

第5回東京大学・東京歯科大学合同研究報告会開催

2024年3月26日（火）午後3時より、水道橋校舎本館西棟ラウンジにおいて、第5回東京大学・東京歯科大学合同研究報告会が開催された。本報告会は、東京歯科大学研究プロジェクト（ウェルビーイングプロジェクト）における若手・次世代研究者育成の取り組みの一環として開催され、本学および東京大学口腔顎顔面外科・矯正歯科に在籍する若手研究者が、日頃の研究成果を披露した。

本研究報告会は、2019年度の顎骨疾患プロジェクトにおける開催を皮切りに、今回で第5回を迎えた。新型コロナウイルス感染症のまん延防止の観点から第2回目以降はオンラ

イン開催であったが、今回は念願の対面開催となった。

口腔科学研究センターの山口 朗客員教授による開会の辞の後、本学薬理学講座の高橋有希講師と東京大学の小野紗也加先生が座長を担当し、以下の若手研究者による発表が行われ、活発な質疑応答が繰り広げられた。

研究報告会の最後は、片倉 朗副学長と東京大学の星 和人教授による閉会の辞で締めくくられた。報告会の後は懇親会が開催され、両校の若手研究者のさらなる交流を深めることができた。次世代研究者のさらなる躍進が期待できる有意義な合同研究報告会となった。

【本学からの発表者】

- 千代侑香大学院生 ミトコンドリア外膜分子 TSPO による T 細胞応答の制御
立澤孝太郎大学院生 口腔外科における Digital Transformation : 私たちの取り組みと展望
徳山彰秀大学院生 顎骨内新規幹細胞画分発見への道のり

【東京大学からの発表者】

- 久保田恵吾先生 腫瘍関連マクロファージの分子機構から推察した再生医療とマクロファージの関係
小野紗也加先生
..... 骨代謝ネットワーク *in vitro* 再構築系を用いた骨吸収抑制剤の骨リモデリングに対する影響の時空間的解析
清水玲那先生 AI を用いた軟骨細胞の純化分離方法の検討

▲演者と演題

学校法人東京歯科大学 令和6年度辞令交付式開催

2024年4月1日（月）午前10時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、令和6年度学校法人東京歯科大学辞令交付式が行われた。本学全施設合同での新入教職員の辞令交付式であり、教育職員35名、医療技術系職員25名、看護系職員83名、事務系職員9名、臨床研修歯科医91名、臨床研修医10名の合計253名が出席し、緊張した面持ちで辞令交付式に臨んだ。

井出吉信理事長、一戸達也学長からの挨拶の後、新入職員

代表として市川総合病院看護師の久保田有美さんが井出理事長より辞令が交付され、宣誓を行った。

法人理事、役職者の紹介の後、閉式となり、新入教職員はそれぞれの思いを胸に、東京歯科大学の一員として新たな一歩を踏み出した。

辞令交付式終了後、石井拓男常勤監事より「東京歯科大学の歴史と使命」と題した講演が行われ、皆熱心に耳を傾けていた。



▲挨拶をする井出理事長



▲挨拶をする一戸学長



▲宣誓をする久保田さん

2023年度歯科医師臨床研修修了式挙行

2023年度歯科医師臨床研修終了式が、水道橋病院、市川総合病院、千葉歯科医療センターにおいてそれぞれ挙行された。

水道橋病院では、2024年3月15日（金）午前9時より、水道橋校舎本館12階において行われた。式は司会の平田創一郎研修管理委員長の開式の辞に始まり、山下秀一郎病院長より研修修了者48名に修了証が授与された。引き続き山下病院長より訓辞があり、「2023年度臨床研修歯科医」の最優秀賞（千葉あやか先生）ならびに優秀賞2名（能登一城先生、渡邊元貴先生）に記念品を贈呈し、修了式を閉式した。

市川総合病院では、2024年3月15日（金）午前9時より、市川総合病院講堂において、医科・歯科合同で行われた。

式は司会の大塚 健人事課長の開式の辞に始まり、西田次郎病院長から研修修了者（医科10名、歯科14名）に修了証が授与された。引き続き西田病院長、福島裕之研修管理委員長、松浦信幸歯科研修管理委員長から訓辞があり、修了式を閉式した。

千葉歯科医療センターでは、2024年3月27日（水）午前9時より、千葉歯科医療センター講義室において行われた。式は一木治男庶務係長の開式の辞に始まり、片倉 朗センター長から臨床研修歯科医に修了証が授与された。引き続き、片倉センター長による訓辞、久永竜一研修管理委員長の挨拶が行われ、修了式は無事に閉式した。



▲訓辞をする山下水道橋病院長



▲修了証を授与する西田市川総合病院長



◀修了証を授与する片倉千葉歯科医療センター長



▲水道橋病院集合写真



▲市川総合病院集合写真

2024年度歯科医師臨床研修開始式挙行

2024年度歯科医師臨床研修開始式が、水道橋病院、市川総合病院、千葉歯科医療センターにおいてそれぞれ挙行された。

水道橋病院では、2024年4月1日（月）午前11時より、水道橋校舎13階において行われた。山下秀一郎病院長による辞令交付、訓辞に続き、平田創一郎研修管理委員長からの教員紹介、挨拶をいただき、無事に式を終了した。

市川総合病院では、2024年4月2日（火）午後5時より、市川総合病院角膜センターにおいて医科・歯科合同にて

行われた。西田次郎病院長から辞令交付に続き、西田病院長、福島裕之研修管理委員長、松浦信幸歯科研修管理委員長から、それぞれ挨拶をいただいた。

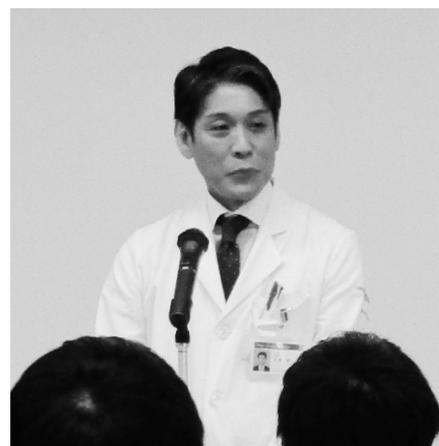
千葉歯科医療センターでは、2024年4月1日（月）午前9時より、千葉歯科医療センター講義室において行われた。片倉 朗センター長による訓辞に続き、久永竜一研修管理委員長からの挨拶をいただき、無事に式を終了した。



▲辞令を交付する山下水道橋病院長



▲辞令を交付する西田市川総合病院長



▲訓辞をする片倉千葉歯科医療センター長

2024年度修学指導方針説明会開催

2024年4月5日（金）午後2時10分より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、修学指導方針説明会が開催された。

まずはじめに一戸達也学長より指導方針の総括説明が行われた。続いて山本 仁副学長、阿部伸一教務部長、笠原正貴学生部長の順でそれぞれ学生修学、学生勉学、学生生活についての指導方針の説明を行い、説明会は終了した。



▶総括説明をする一戸学長

2024年度フレッシュマンセミナー開催

2024年4月24日（水）から26日（金）までの3日間、かずさアカデミアパーク（木更津市）において、2024年度フレッシュマンセミナーが開催された。本セミナーは「歯科大学1年生としての学習の心構え」、「How to learn, how to study」、「新入生同志の親睦」の3点を目的としている。

1日目は、かずさアカデミアパークに到着後、午前11時から開講式、語学研究室の松浦由美子准教授による「歯科医師たる前に人間たれ」と題した講演が行われた。昼食後はグループ毎に分かれて「挨拶する・しないがもたらすもの」についてアイスブレーキングをかねて討議し、討議内容についての全体発表が行われた。午後3時55分からは山本 仁副学長より「ディベート」についてのグループ討議の概要説明があり、午後4時25分から1回目のグループ討議が行われた。最終日に行われる公開ディベートは、新入生を12のグループに分け、与えられたディベートテーマに基づきグループ対抗で実施される。その準備としてグループ討議の時間に情報収集をし、立論スピーチの作成や質疑応答の整理を行っていく。午後6時30分からは夕食ならびにマナー講師によるテーブルマナー講義が行われ、新入生およびチューターの教員で円卓を囲み、実りある時間を過ごした。夕食後は午後9時まで2回目のグループ討議が行われた。

2日目は、午前9時より3回目のグループ討議を行い、公開ディベートに向けてチューターの指導を受けながら活発に討議

が進められた。昼食後の午後1時より本学卒業生の石井大貴大学院生による「卒業生からのメッセージ」と題した講演が行われた。その後、4回目のグループ討議が行われ、午後5時20分からはクラウンブリッジ補綴学講座の関根秀志教授、病理学講座の松坂賢一教授、歯科理工学講座の服部雅之教授、物理学研究室の池上健司教授の順で「歯科臨床のための、基礎学問と教養科目」と題した講演が行われた。2日目の夕食時には、懇親会としてビンゴゲームおよび校歌の練習が開催され、新入生同志がより親睦を深めるきっかけとなり、大盛況であった。また、夕食後には5回目のグループ討議が行われ、新入生たちは翌日の公開ディベートに向けてグループで一丸となって準備に取り組んでいた。

最終日は午前9時より3会場に分かれて公開ディベートを行い、各会場とも白熱した議論が展開され、充実した公開ディベートとなった。昼食後、山本副学長より公開ディベートの講評が行われた。閉講式を終えた後、バスにてさいかち坂校舎に戻り、3日間にわたるフレッシュマンセミナーの全日程を無事に終了した。

この3日間で新入生たちはグループ討議を行うことで親睦を深め、卒業生や本学教員の講演を聞くことにより本学にて学ぶことの意欲を高めることができた。3日間での新入生の成長は目まぐるしく、これから6年間を本学で学んでいく第一歩として大変有意義なセミナーであった。



▲開校式で挨拶をする一戸達也学長



▲グループ討議の様子



▲テーブルマナーの様子



▲公開ディベートの様子

2024年度千葉歯科医療センター新年度開始式開催

2024年4月8日（月）午前8時30分より、千葉キャンパス体育館アリーナにおいて、千葉歯科医療センター新年度開始式が行われた。片倉 朗千葉歯科医療センター長より、スタッフが丸となって効率のよい診療・業務へ取り組むよう挨拶をいただいた。

▶挨拶をする片倉千葉歯科医療センター長



第212回歯科医学教育セミナー開催

2024年4月22日（月）午後6時より、オンラインにて、第212回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は「新年度の教育体制について」と題し、山本 仁副学長、阿部伸一教務部長から説明が行われた。

はじめに山本副学長より、①教育体制に関する基本方針、②ワークショップなどの実施、③共用試験公的化にむけて、④Elective Study Program・海外研修の充実についての説明

があった。続いて阿部教務部長より、①授業・実習形態について、②授業の注意点、③教育力向上に対する方略についての説明があった。

今年度の教育についての指針が示されるということで多くの参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ、大変有意義なセミナーとなった。

2024年度第1回水道橋病院教職員研修会開催

2024年4月23日（火）午後6時より、オンラインにて、2024年度第1回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、院内マニュアル3種類（個人情報保護管理マニュアル、医療安全管理マニュアル、感染予防対策マニュアル）の内容が改訂されたことを受け、「院内マニュアル改正点の説明」として各マニュアルの改訂内容について説明が行われた。

説明は、まず「個人情報保護における注意点」と題して個人情報保護委員会委員長の鳥山佳則教授より説明があり、次に

「2024年度医療安全管理マニュアルの改正点について」と題してリスクマネジメント部会長の竜 正大准教授より説明があった。続いて「感染予防対策マニュアル改訂点と抗体価」と題して感染予防対策チーム委員会委員長の辻野啓一郎講師から説明があった。

今回の研修会は、各マニュアルの改正内容について教職員が正確に認識することにつながる大変有意義な研修会となった。

■ 大学院入学試験（Ⅱ期）実施

2024年3月2日（土）午前9時30分より、水道橋校舎新館第3講義室において、2024年度大学院入学試験（Ⅱ期）が実施され、外国語（英語）試験および志望講座における主

科目試験・面接が行われた。

3月8日（金）午後12時に合格発表が行われた。

■ 2023年度大学院歯学研究科修了式開催

2024年3月11日（月）午前10時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、2023年度大学院歯学研究科修了式が、歯学部卒業式に先立って開催された。大学院修了者38名がアカデミックガウンと帽子を装い出席し、齋藤 淳大学院歯学研究科長より修了者代表の安藤雄太郎大学院生に修了証が授与された。

その後も水道橋校舎新館第1講義室において、齋藤研究科

長より修了者一人ひとりに修了証が授与され、さらに続けて齋藤研究科長より大学院研究科長賞の授与と、富山雅史同窓会長より同窓会長賞の授与が行われた。そして午後1時より水道橋校舎西棟ラウンジにおいて、大学院修了を祝う会が、井出吉信理事長、一戸達也学長をはじめ各講座主任出席のもと開催された。



▲齋藤大学院歯学研究科長より修了証を授与される安藤大学院生



▲大学院修了式

■ 2024年度大学院歯学研究科入学式開催

2024年4月2日（火）午前10時より、水道橋校舎本館第1講義室において、2024年度大学院歯学研究科入学式が開催され、大学院入学者32名が出席した。

福田謙一大学院学生部長の開会の辞に始まり、一戸達也学長より新入生代表の奥村哲嗣大学院生に入学許可証が授与された。一戸学長、齋藤 淳大学院歯学研究科長の訓辞、

富山雅史同窓会長の挨拶の後、奥村大学院生の宣誓があり、入学式は終了した。その後、齋藤研究科長より入学者一人ひとりに入学許可証が授与された。

引き続き、福田学生部長による研究倫理に関する講演とオリエンテーションが行われた。

長期海外出張報告

組織・発生学講座 講師 笠原典夫

2022年12月から2023年9月まで、ドイツ連邦共和国マールブルク大学附属病院顎顔面口腔外科学講座（Philipps-University of Marburg and University Hospital Marburg, Mund, Kiefer und Gesichtschirurgie）にVisiting post graduate researcherとして長期海外出張させていただきました。

マールブルクはフランクフルトから北東に約80kmの距離にある町で、その成立は9世紀に遡ります。当時から現存する城塞と、13世紀に建設されたケルン大聖堂のモデルとなった教会がシンボルの小さな城下町です。マールブルク大学の歴史も非常に古く、今からおよそ500年前の1527年に設立され、ドイツ最古のプロテスタント系大学として有名です。現在のマールブルク大学は医学部や歯学部の他に神学部や理学部など20の学部を持つ総合大学であり、附属の大学病院は歯科を含む13の診療科に30の専門科治療センターと約80のクリニックを有し、ドイツ国内でも有数の大規模な病院を統括しています。マールブルク大学は、古くは童話作家として有名なグリム兄弟が教鞭をとった大学です。また、心臓の房室結節を発見した田原 淳先生や、日本人女性初の医学博士を取得した宇良田 唯先生が留学していたこともある、日本の医学研究と関わりが深い大学です。日本では「田原の結節」として表記されることも多い房室結節ですが、田原先生の師であるLudwig Aschoffの名を冠し「ドイツではAschoff-Tawara結節と表すことが一般的だよ！」と、Andreas Neff 主任教授に教わりました。現在ではNeff主任教授と1974年に東京歯科大学を卒業した久保四郎先生が共同研究を行って

おり、日本では名の知られていないマールブルク大学ですが、明治の時代から脈々と続く関係性に感慨に耽る留学となりました。

Neff主任教授は顎関節の臨床研究がメインだったため、マールブルク大学総合癌研究センターの頭頸部腫瘍学および血管異常研究室（Labor für Kopf-Hals-Onkologie und vasculäre Anomalien）へ出向させていただき、Robert Mandic教授に師事いたしました。Mandic教授の研究室は、血管腫・血管奇形および頭頸部腫瘍について10の研究テーマやプロジェクトを並行して研究している、非常に活気溢れる研究室です。Mandic教授の研究室では世界のさまざまな国から留学生を受け入れており、私が在籍していた期間だけでも、台湾、エクアドル、スペイン、シリア、ヨルダン、バングラデッシュ、モンゴルの留学生が在籍しており、控室で話しているときにはさまざまな国の言語が飛び交っておりました。お互いの母国語が英語・ドイツ語でない人ばかりだったので、気兼ねなく話しをすることができ、良好な人間関係を築くことができました。彼らは「感謝を述べる言葉だけはその方の母国語で伝える」ことを旨としていたことに、深い感銘を受けました。

留学の直前、Mandic教授はNeff主任教授とともに頭頸部扁平上皮癌に関する新たな研究プロジェクトを立ち上げ、Neff主任教授の取り計らいで、そのプロジェクトに参加させていただくことになりました。Mandic教授から与えられたテーマは「頭頸部扁平上皮癌における放射線照射後の代謝変



▲ Neff 主任教授と診療室にて



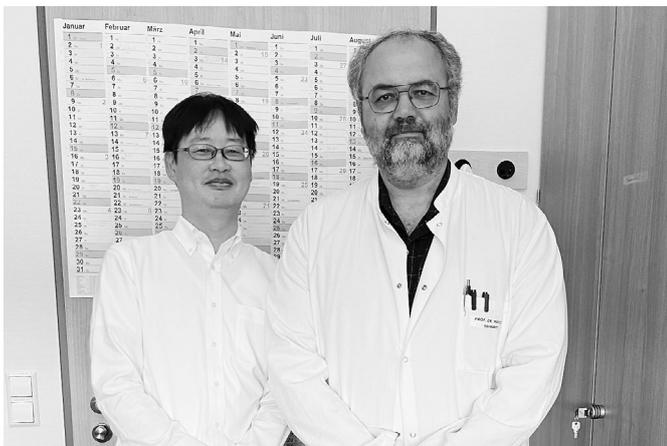
▲ Neff 主任教授(左)、久保先生(中央)と診療室にて

化」で、ドイツ国内でも2か所しかない重粒子線と光子線の照射施設（マールブルグイオンビーム治療センター）と協力して実施することになりました。頭頸部は狭い領域に多彩な組織学的構造を有するため、往々にして外科処置が困難です。加えて、ヒトパピローウイルスの感染の有無によって癌のタイプは大きく2つのタイプ（HPV-PositiveとHPV-Negative）に区別され、それぞれの病態が異なるために治療方針も異なる、根治が困難な癌の一つにあげられています。そこで我々は、培養した6種類の重層扁平上皮癌細胞に2種類の放射線（光子線、重粒子線）を照射し、癌細胞の代謝にどのような変化が認められるかについて検討を行いました。細胞の代謝については細胞外フラックスアナライザー（Seahorse XFe96, Agilent）を用い、リアルタイムで細胞の代謝を計測いたしました。その結果、HPV-Positive癌細胞はHPV-Negativeとは異なる代謝変化をする可能性が示唆されました。特に重粒子線に対しては代謝変化の割合が大きく、今後の治療の一助となる結果を得ることができました。現在、さらなる追加実験を行っており、今後も綿密な共同研究

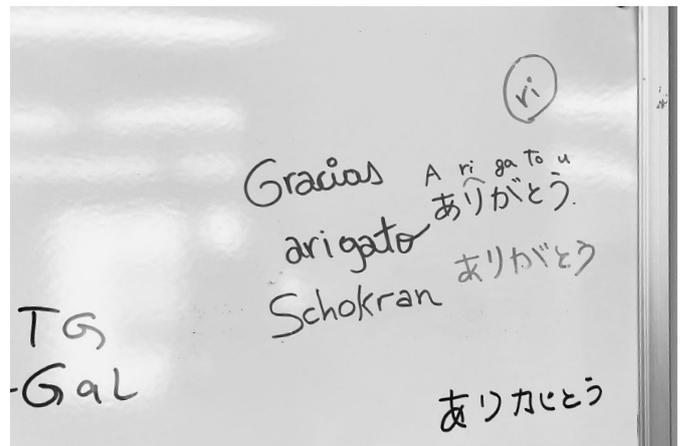
を行っていく予定です。

留学期間中、Mandic教授からは「日本人は休暇を取らないらしいね！」と冗談まじりに言われ、「徹夜で実験」や「土日の細胞培養」など、ドイツに留学されておられた諸先輩方から聞いていたのとはかけ離れた留学生活でしたが、とても有意義で濃密な時間を過ごさせていただきました。留学期間中、余暇と呼べるようなものはほとんどなく、帰国前にスタッフが開いてくれた送別会と、一戸達也学長がマールブルクまでいらしてくださったことが私の留学期間中の数少ない幸せな思い出です。

最後に、このような貴重な機会を与えていただきました井出吉信理事長、一戸学長、片倉 朗副学長、山本 仁副学長、新谷誠康国際交流部長に深謝いたします。また、出張中多大なるご尽力を賜りました組織・発生物学講座の先生方ならびに長期海外出張に関わっていただいたすべての方々に厚く御礼申し上げます。この度知り得た知見や経験を活かし、本学の発展に微力ながら尽力したいと存じます。



▲ Mandic 教授と研究室にて



▲感謝の言葉を教え合ったときのホワイトボード



▲ Mandic 教授と頭頸部腫瘍研究室のスタッフによる送別会にて



▲ Neff 主任教授(左)、マールブルク大学医学部長(中央)、Mandic 教授(右)にお土産の風呂敷を渡す一戸学長

長期海外出張報告

歯科放射線学講座 講師 小高研人

2023年2月から2024年2月までの1年間、ドイツ連邦共和国のベルリン州にあるシャリテーベルリン医科大学（Charité – Universitätsmedizin Berlin）への長期海外出張をさせていただきましたのでご報告いたします。

ベルリンにはベルリン自由大学、フンボルト大学があり、過去には本学からも多くの先生方が留学し研鑽を積んでこられました。2010年および2011年にこれら3大学の医学部はシャリテーの傘下に統合され、現在に至ります。シャリテーは1709年にプロイセン王フリードリヒ1世の命令で腺ペストの検疫所を基として設立され、1727年には兵隊王フリードリヒ・ヴィルヘルム1世の“Es soll das Haus die Charité（これは、チャリティの家である）”の言葉を伴った下賜により「慈善」を意味するシャリテーと名づけられました。その後、ドイツのノーベル生理学・医学賞受賞者の半数以上を輩出し、現在では4つのキャンパスと17部門に分かれたシャリテーセンター（CC）、100以上の診療所および研究所を有する研究集約的な医療機関です。2024年現在、Newsweek社が毎年発表しているWorld's best hospitalsのランキングにおいては5年連続でベスト10に入賞しており、医学界を牽引する病院の一角といえます。私はCC9: Orthopedics and Traumatologyの中の顎顔面外科（Klinik für Mund-, Kiefer- und Gesichtschirurgie: MKG）に留学し、その期間のほとんどをCampus Virchow-Klinikumにて過ごしました。このキャンパスは旧東側ベルリンを思わせる赤レンガを基調とした建物が特徴的で、整えられた木々が四季折々の姿を見せてくれることから近隣住民からも人気のお

散歩コースとなっており、その入り口では病理学者としてのみならずベルリン近代化のために政治家としても活躍したRudolf Virchowの描かれた銅版が出迎えてくれます。

MKGにはMax Heiland教授をはじめ49名の医師が在籍していました。彼らは主にCampus Virchow-KlinikumおよびCampus Benjamin Franklinの2病院にて手術を行っており、3Dプリンタ製デバイスや患者固有インプラント（PSI）、手術用顕微鏡システム、術中CT、ロボット手術システムなど多彩なデジタル技術を応用した高度な手術が日常的に行われておりました。その一方で、中には研究をメイン業務としている医師もおり、特にTabea Flügge教授は30以上の企業や組織、ベルリンのすべての大学で構成される官民パートナーシップとしてアインシュタイン財団から承認されたEinstein Center Digital Futureのメンバーであり、医用画像を応用した歯科治療支援や診断支援において優れた業績をお持ちでした。私は留学開始時にHeiland教授との面談において私の研究内容をプレゼンしたところ、ただちにFlügge教授を紹介していただき、早い段階から共同研究を開始することができました。

Virchow-Klinikumの特徴として、病院内に医療機器メーカーKLS Martinの3D Labが存在し、エンジニアが常駐していることがあげられます。KLS Martinにはオンラインで注文を受けて手術支援デバイスを製作するサービスがすでに存在しますが、シャリテーにて受け入れている患者には特殊な処置を必要とする症例も多く、デジタルファブリケーションラボが院内にあることで執刀医とエンジニアが円滑に意思疎



▲ Campus Virchow-Klinikum の正門



▲ Virchow-Klinikum 入口にて（筆者と長男）

通を図れるとともに、3D Labに設置された3Dプリンタにてポリアミド製の骨模型やデバイスは比較的容易に造形可能であり、術者を支援するシステムとして有効に機能していました。

Heiland教授の指導の下、私たちが留学中に行った研究は、①MR画像における構造物自動抽出のための深層学習システム開発、②下顎枝矢状分割術後の骨切り部評価を支援する半自動セグメンテーションシステムの開発、③骨治癒とCD8⁺ CD57⁻TEMRA細胞発現の検索、④遊離肩甲骨弁を用いた顎骨再建を支援するデバイス開発でした。当初は画像検査を活用した手術支援が私の主な研究テーマでしたが、留学中の研究を通じ、新たにRadiomicsというキーワードを得ることができました。これは画像検査から得られる特徴的所見を再現性高く定量化する研究分野で、深層学習が広く用いられるようになったことで飛躍的に発展しており、単独あるいは統計学、組織学、病理学、ゲノムおよびプロテオミクスの

データと組み合わせることで臨床的な問題を解決することが期待されています。今後はRadiomicsを新たなアプローチとして活用し、歯科医師による診断を強力に支援するシステムを開発することで歯科放射線学の進歩に貢献するとともに、データを活用した歯科治療支援、口腔外科手術支援ならびに新規治療法開発を学際的に推進してまいります。

このような貴重な長期海外出張の機会を与えていただいた井出吉信理事長、一戸達也学長、片倉 朗副学長、山本 仁副学長、新谷誠康国際交流部長、歯科放射線学講座の後藤多津子主任教授ならびに関係者各位に厚く御礼申し上げます。また、出張中にすべての面で支えていただいた歯科放射線学講座および放射線科の皆様重ねて感謝申し上げます。

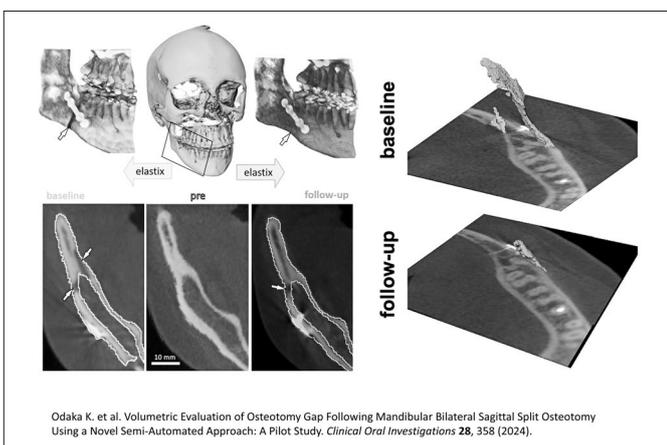
最後に、慣れない異国の地に帯同して苦楽をともにした妻と、それさえも全身全霊で楽しむ姿を見せてくれた息子に感謝いたします。



▲上顎再建のためのPSI



▲手術用顕微鏡システムを用いたマイクロサージェリー



▲半自動セグメンテーションシステムの開発



▲集合写真(中央左:筆者、中央右:Heiland 教授)

長期海外出張報告

口腔顎顔面外科学講座 講師 吉田秀兎

この度、2023年4月1日（土）から2024年3月31日（日）までの1年間、フランス共和国北部のアミアン・ピカルディ大学病院センター顎顔面外科（Maxillofacial Surgery, CHU Amiens-Picardie）およびその研究施設であるInstitut Faire Facesへ長期海外出張をさせていただきましたので報告致します。

私が出張したアミアン・ピカルディ大学病院センター（CHU Amiens-Picardie）は、この地域（オー・ド・フランス）の臨床・教育・研究を担う総合施設です。アミアンにはピカルディ・ジュール・ヴェルヌ大学（UPJV）などがありますが、フランスでは基本的に大学が病院を持たず、区分された地域にある大学から学生が臨床を学ぶために大学病院センターに行くという教育体制です。さまざまな大学により共同で運営されていますので、異なる大学の学生が病院にいるという新鮮なプログラムです。しかも、医歯学の大学教育は日本と同じく6年間ですが、学年末ごとに共通試験があり、進級が非常に厳しいのが特徴です。病院研修期間が日本より多く、研究室研修も推奨されていることから、1人の医師、研究者として自立性が求められるようでした。私が研究でお世話になったInstitut Faire Facesは、CHU Amiens-Picardie、UPJV、他大学と公共機関からの協力で設立した財団施設で、専門研修修了に必要な研究を学生や研究員が意欲的に行っていました。

CHU Amiens-Picardieは三次救急医療機関で、この地域の医療の中核を担うとても大きな医療施設です。救急車が駐車場に10台以上待機しており、ヘリポートも2つ併設され、絶え間なく急患を受け入れる体制がとられていました。私の所属した顎顔面外科は、世界ではじめて顔面移植を成功させたBernard Devauchelle教授を中心としてさまざまな手術、特に口腔顎顔面領域の再建手術を多く行っています。手術は

月曜日から金曜日のすべての日で行われており、1週間で20件ほどの治療が行われています。再建手術をメインで学ぶことができ、見たこともない顔面再建やダブル皮弁再建など新鮮なことばかりで、とても刺激的で貴重な症例を経験することができました。もちろん、日本で私がメインで行っている顎矯正手術や口唇裂・口蓋裂の手術にも積極的に参加でき、追加の知識を得ることができました。また、学生の病院研修については4学年から病院手当が支給されるので、早い段階から1人の医師としての自立心があり、知識を取り込む欲が強い印象でした。教育方法は違っていました、日本の教育を考え直す必要性を身に染みて感じました。

この病院での一番の収穫は、フランス顎顔面外科の歴史に多く触れることができたことです。この病院には、フランス顔面外科医協会の依頼で顔面裂の分類で有名なPaul Tessier教授の症例写真、スライドや手術器具のプロトタイプが保管されており、実際に閲覧することができました。顔面裂分類の原画を見られたことや貴重な資料に触れることができ、自分の口腔外科医としてのモチベーションが一層高まりました。これこそ温故知新の精神を大切にするフランスならではの体験でした。

一方研究は、CHU Amiens-Picardieの敷地内にあるInstitut Faire Facesにて、Stéphanie Dakpé教授とともに、顔面のモーションキャプチャーによる筋運動についての研究と、CHU Amiens-Picardieが所有する学生向けシミュレーションセンターであるSimUSanteにおける教育研究を共同して行いました。どちらの研究でも、機器の運用、ソフトウェアの操作および解析は、基本的に所属するエンジニアを主体とする研究員が行っていました。我々医療従事者がアイデアを出し、それを具体的に計画して、定期的に行う会議で研究員と情報共有するという体制でした。とてもうらやましい体制で、最新情報を研究員が毎回収集し紹介することで研究を



▲ CHU Amiens-Picardie の医局員、看護師、学生と病棟にて



▲ Devauchelle 教授と最終日の送別会にて

アップデートしていくので、質の高い研究が進められていました。研究員はフランス人もいますが、中国、メキシコ、コロンビア、イギリス、アルジェリア、ポリネシアなどのあらゆる国の出身の研究員もおり、とても国際色豊かな職場でした。それに加え、他の研究チームであっても研究員同士の交流が深く、アットホームな研究所で働くことができました。

私の具体的な研究内容は、モーションキャプチャーによる上唇から鼻周囲にかけた筋の特徴に関する解析です。この研究の中で、民族による鼻周囲の筋走行に相違の疑いがあること、民族的アイデンティティや美的欲求の相違を明らかにすることがこの分野の課題となり、今後も共同してこの研究を行っていく予定となりました。このように施設間で国を超えた共同研究の道筋ができたことは、継承の第一歩になったと感じています。またSimUSantéという教育研究施設は、東京歯科大学でいうスキルスラボと同等の位置づけですが、新たなプラットフォームを積極的に挑戦できる環境はとてもうらやましく思いました。我々教育者と研究員（エンジニア）が共同して学生実習に参加することで教育研究をすぐにアップデートできるスタイルは理想的で、我々が目指す体制であると感じました。今後も共同して教育研究を行うこととなり、私にとって新たな研究分野が開拓できたことを喜ばしく思います。

私の滞在したアミアンは、小説『海底2万マイル』の作者であるSFの父、ジュール・ヴェルヌが過去に市議会議員を務め、晩年を過ごした都市です。Down townや郊外にUPJVや他大学の施設が多く点在し、若者が人口の半分近く占めるとても活気のあるところでした。さらに世界遺産であるアミアンのノートルダム大聖堂やジュール・ヴェルヌの設立した施設が多くある観光地で、特急電車で1時間ほどかければ首都パリや第4の都市リールに足を延ばすことができる、とても住みやすい場所です。プライベートでは、毎月第一日曜日はフランス国内の公立美術館、博物館が無料なので多くの芸術作品に触れることができ、そして週末や夜にイベントが多く行われるためフランス文化にたくさん触れることができました。一方、気になる言語ですが、「フランス人はフランス

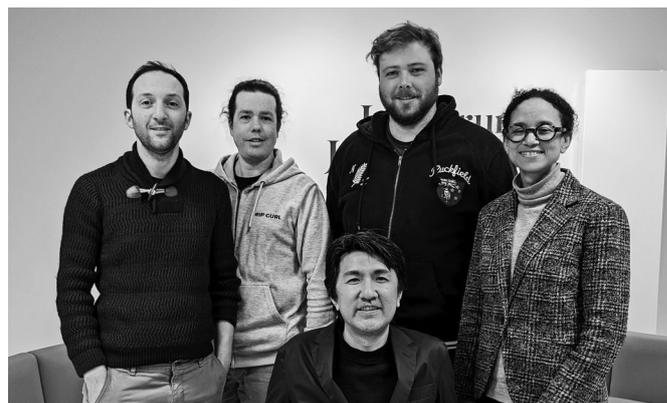
語しか話さない」という都市伝説のようなことをよく日本で耳にしていたのですが、実際私の普段の生活圏で英語が話せる人は10%以下で、感覚では「フランス人は英語に苦手意識がある」という日本人と似た感情を持っているようでした。病院では英語を話す人は50%ぐらいに上がりますので、簡単な会話ぐらいは英語でコミュニケーションを取れましたが、ほとんどの人は苦手意識があるので滞在当初からすぐにフランス語での会話を余儀なくされ、コミュニケーションの難しさを目の当たりにしました。もともと自分は英語を流暢に話すことができませんが、自分の第三言語となるフランス語を少しでも上達させることができたのは大きな収穫でありましたし、言語習得の過程で自分自身の管理法を見つめ直せました。この言語習得論が、教育や研究に通じると感じ、今後何かしらのかたちで利用していこうと思います。

今回の長期海外出張は、高野正行客員教授が学会の理事でつながりがあったSylvie Testelin教授との交流から実現しました。高野客員教授に感謝を申し上げるとともに、フランスでの施設内だけでなくプライベートの生活まで事細かくケアしていただいたTestelin教授、Dakpé教授、医局員の方々とInstitut Faire Facesの研究員の皆様にも心より感謝致します。また、このような機会の許可を下さった井出吉信理事長、一戸達也学長、片倉 朗副学長、山本 仁副学長、松井淳一副学長、新谷誠康国際交流部長に感謝を申し上げます。加えて、私の不在中にさまざまなサポートをしていただきました口腔顎顔面外科学講座および口腔病態外科学講座の医局員、看護師、歯科衛生士、受付スタッフおよび私の家族にも感謝致します。

皆様も気づかれていますと思いますが、本学のシンボルにはフランス国旗と同じトリコロールが使われています。実は、私の出国前に一戸学長のご指示で図書館の阿部潤也課長が調査し、フランスと同じ『自由、平等、友愛』の精神がもとになっていることがわかりました。フランスに行かなければ判明しなかったこの事実ですが、私はこの精神を大切に持ち続けて、これから精進してまいります。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



▲ Testelin 教授と 58th SFSCMFCO (Toulouse) の学会場にて



▲ Dakpé 教授が率いる Mocap チームと Institut Faire Faces 内にて

長期海外出張報告

組織・発生学講座 講師 北村 啓

この度、2023年4月15日（土）から2024年3月22日（金）までの約1年間、スペイン王国のマドリッド・コンプルテンセ大学（Complutense University of Madrid）に長期海外出張をさせていただきましたので、その概要について報告いたします。

コンプルテンセ大学は1499年に創設された長い歴史を持ち、8万6千人以上の学生が在籍している国内最大の大学です。この学生数を支えるために、大学は広大な敷地と1万人以上の教職員を有しております。この中で私は、医学部解剖・発生学講座のJosé Francisco Rodríguez-Vázquez教授のもとで研究活動を行ってまいりました。マドリッド・コンプルテンセ大学の解剖・発生学講座と本学解剖学講座の関わりは深く、本学からの留学生は私が3人目であることから、初日からスムーズに研究業務に携わることができました。

医学部の校舎は100年以上の歴史があり、1930年代のスペイン内戦での銃弾の跡などが見受けられる大変重要な建築物です。講義を行う教室についても同様に歴史のある階段教室であり、この教室で私は学生たちとともにRodríguez-Vázquez教授の講義を毎日1時間聴講しておりました。

Rodríguez-Vázquez教授の講義は黒板に解剖の模式図を描

くスタイルで、この模式図がわかりやすく、学生にとっても人気の講義でした。私もスペイン語を理解するのに困難でしたが、わかりやすい描写に理解を助けられました。

日々の生活は、午前9時に出校し、午後1時まで顕微鏡観察や論文の執筆を行い、午後1時から2時まで講義を聴講した後に、午後6時までラボワークを行っておりました。ラボでは技師の先生が1名在籍しており、私はその方にヒト胎児の大型標本の製作方法について教わっておりました。技師の先生は英語が話せないため、コミュニケーションに苦労しましたが、スマートフォンの翻訳アプリを駆使してさまざまな意見交換を行いました。私が製作した標本はRodríguez-Vázquez教授の確認の後、マドリッド・コンプルテンセ大学のコレクションに寄贈することができました。

私の専門とする分野である咽頭・喉頭の構造は、2足歩行のヒトと、4足歩行の動物で大きく異なります。さらに、ヒトの成長過程においてもこれらの構造は変化することから、国内でのマウスに限定された発生学的な研究にジレンマを感じていました。一方、マドリッド・コンプルテンセ大学では鰓弓の形成される発生初期から、出生直前に至るまでのヒト胎児の組織標本が大量にコレクションされております。さら



◀ Rodríguez-Vázquez 教授夫妻と筆者の家族

に、歴史が長く保存も長期に渡っているにも関わらず、これらの切片は非常に状態がよく、世界的に有名なカーネギーコレクションや京都コレクションと比較しても引けを取らないと言われています。そのため、これらの貴重なコレクションを観察できたことは自身にとって最高の体験になりました。

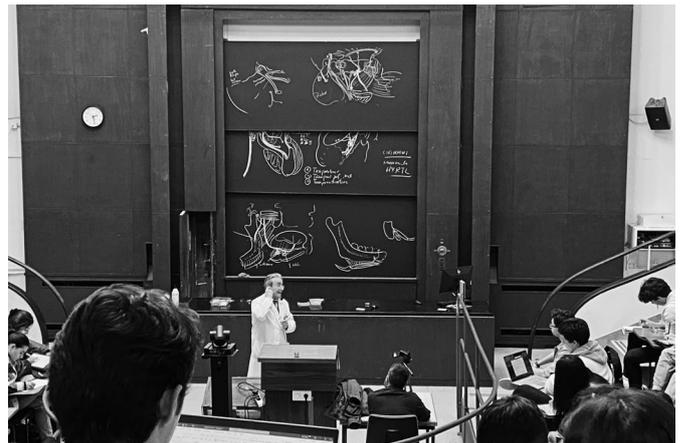
具体的な研究は、①顎二腹筋・茎突舌骨筋の舌骨付着における発生学的検索、②側頭筋膜の2層形態を獲得する過程の観察、③ヒトと4足動物における舌骨下筋群の比較解剖、④鼻腔-咽頭における上皮粘膜の形態変化、⑤胎生期に観察される舌骨体部、大角間の関節のバリエーションについて解析を行いました。このうち①、②は海外雑誌に投稿し、すでに

アクセプトを受けておりますが、③～⑤は引き続きマドリード・コンプルテンセ大学の解剖・発生学講座と共同研究を継続させながら仕上げていく予定です。また、今回観察できたヒト胎児における構造を今後は動物実験に置き換えて、分子生物学的な証明を行っていきたいと考えております。

最後にこのような機会を与えていただきましたことを、関係各位ならびに一戸達也学長、新谷誠康国際交流部長、山本 仁主任教授に厚く御礼申し上げます。また、出張中すべての面でご支援いただきました組織・発生学講座の皆様にも重ねて御礼申し上げます。



▲歴史のある階段教室



▲講義風景



▲筆者が実験していたラボの風景



▲筆者が製作した組織像(歯胚)

2023年度 Elective Study Program、海外研修実施

Elective Study Program (以下、Elective) は、応募者から選考委員会で選考された学生が、海外の大学施設などで研修を行うことにより、広い視野を持ちながら勉学にいそしみ、将来の歯科界および東京歯科大学を担うことができる人材を養成することを目的とした海外留学制度である。2023年度は、右記の日程で海外研修を実施した。Elective参加者は、新年度オリエンテーションでElective報告発表を行い、研修の成果を同級生に共有した。Elective参加者は、本学のオープンキャンパスでも成果報告を発表予定である。

2023年度海外研修制度の拡充として、学生の一部自己負担による「東京歯科大学海外研修」を実施した。2024年3月16日(土)～3月20日(水)の5日間、5年生8名が、延世大学校歯科大学の歯科病院を中心に見学などの病院研修を受けた。

- 第1、2学年 3月24日(日)～29日(金)
台湾/台北医学大学、奇美医学センター
- 第3学年 3月16日(土)～22日(金)
スウェーデン/イエテボリ大学
- 第4学年 3月17日(日)～23日(土)
ドイツ/ハイデルベルグ大学、ミュンヘン工科大学
- 第5学年 3月17日(日)～23日(土)
米国/タフツ大学、ハーバード大学、ボストン大学(米国)

▲Elective訪問大学

| 学年 | 氏名 | 学年 | 氏名 | 学年 | 氏名 | 学年 | 氏名 | 学年 | 氏名 |
|----|--------|----|-------|----|--------|----|--------|----|--------|
| 1 | 雨宮 なな子 | 2 | 會田 尊氏 | 3 | 小倉 幸樹 | 4 | 石坂 大昂 | 5 | 石川 智大 |
| 1 | 海老原 啓宏 | 2 | 井出 玲乃 | 3 | 塚本 菜奈 | 4 | 久保田 百詠 | 5 | 伊東 真輝 |
| 1 | 濤岡 空 | 2 | 佐藤 巧実 | 3 | 中尾 大河 | 4 | 中田 瑚都 | 5 | 小笠原 優花 |
| 1 | 丸山 菜月 | 2 | 宮下 芽依 | 3 | 初野 日菜乃 | 4 | 吉田 颯樹 | 5 | 朴 彩媛 |

▲Elective選考者

| 学年 | 氏名 | 学年 | 氏名 |
|----|-------|----|--------|
| 5 | 安藤 大貴 | 5 | 武井 すみれ |
| 5 | 椛田 一輝 | 5 | 森 悠作 |
| 5 | 黒崎 凌 | 5 | 山中文緒 |

▲海外研修参加者



▶奇美医学センターでの手術見学の様子



▶イエテボリ大学Peter Lingström 歯学部長表敬訪問の様子



▲ミュンヘン工科大学での手術見学前の軽食の様子



▲タフツ大学Nadeem Karimbux 歯学部長表敬訪問の様子



▲延世大学校歯科大学Kee-Joon Lee歯学部長表敬訪問の様子

■ 山田 了名誉教授が令和6年春の叙勲において瑞宝小綬章を受章される

本学元千葉病院長の山田 了名誉教授が、令和6年春の叙勲において瑞宝小綬章を受章された。

山田名誉教授は、本学大学院修了後、1976年より歯科保存学第二講座助手、講師を歴任された後、1991年4月に同講座主任教授に就任された。2001年6月に千葉病院長、2002年4月に法人評議員、2007年6月からは千葉病院保存科部長、図書館長に就任され、2011年3月に定年退職となるまで、約35年の永きにわたり大学の発展に寄与するとともに、歯周病の治療、歯周病学の教育・研究に努められた。

学外では、日本歯周病学会理事、日本歯科保存学会理事、日本口腔インプラント学会常務理事、日本歯科薬物療法学会理事、科学研究費委員会専門委員など、数々の要職を歴任された。

長年にわたるこれらの功績が評価され、今回の受章となった。



▲山田名誉教授夫妻

■ 阪上隆洋先生、金光安奈先生 Dental Traumatologyでの掲載論文がWiley Top Cited Article 2022-2023に認定

2022年にDental Traumatologyにおいて口腔健康科学講座スポーツ歯学研究室の阪上隆洋先生、金光安奈先生のそれぞれが報告した「Improving light-cured intermediate resin for hard and space mouthguard using a glass fiber」および「Head injuries caused by contact with teeth during sports and exercise activities in Japanese schools during the period 2012-2018」の2編が、被引用回数の多い論文としてWiley Top Cited Article 2022-2023に認定された。

「Improving light-cured intermediate resin for hard and space mouthguard using a glass fiber」は衝撃吸収能および分散能に非常に優れたハード&スペースマウスガードにおいて、中間層に使用する硬性材料にグラスファイバーを添加した光重合レジンを採用し、衝撃吸収能、耐衝撃性について検討した研究であり、長繊維グラスファイバーを添加することにより物性が大きく向上することを明らかにした。

また「Head injuries caused by contact with teeth during sports and exercise activities in Japanese schools during the period 2012-2018」は日本の学校管理下で発生している頭部外傷のうち、歯により引き起こされている頭部外傷の頻度について調査したものであり、研究期間中における頭部外傷の約1%が歯により引き起こされていることを明らかにし



▲Wileyより授与された認定証

た。これにより歯が凶器となる可能性が示され、マウスガード装着の重要性が示唆された。

上記2編の論文が2022年1月～2023年12月の2年間において被引用回数の多い論文として認定され、掲載誌であるDental Traumatologyの出版社であるWileyから認定証が授与された。

小原身知子レジデント 第27回口腔顔面神経機能学会総会・学術大会に最優秀学会賞を受賞

2024年2月17日（土）に、和歌山県立医科大学紀三井寺キャンパス（和歌山市）において開催された第27回口腔顔面神経機能学会総会・学術大会にて、口腔顎顔面外科学講座の小原身知子レジデントが最優秀学会賞を受賞した。受賞演題は「東京歯科大学急性期神経機能修復外来における神経障害性疼痛症例の臨床的検討」である。

神経障害性疼痛は「体性感覚神経系の病変や疾患によって引き起こされる疼痛」と定義されており、神経系の損傷や機能不全により発症する難治性疼痛である。「痛み」は定量的な検査が難しく、精神的、感情的な修飾を受けやすいことから診断や治療の選択が困難である。今回、神経障害性疼痛の実態を把握するために臨床的検討を行い報告した。本学急性期神経機能修復外来の初診患者数、手術症例数は年々増加傾向にあり、今後のさらなる発展が期待される。



▲受賞した小原レジデント（左）と渡邊 章准教授

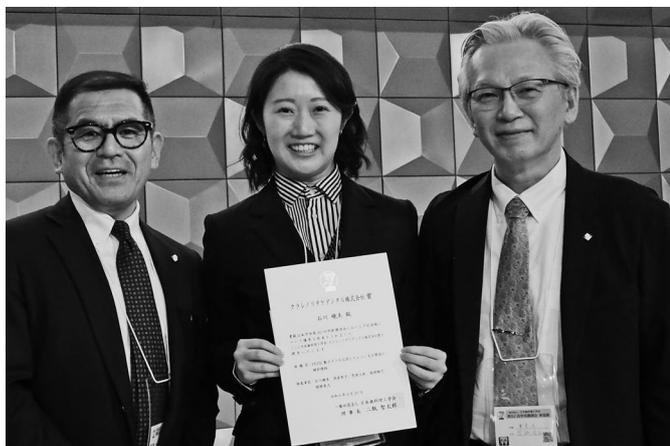
石川曉美大学院生 第82回日本歯科理工学会学術講演会にて企業賞を受賞

2024年4月20日（土）と21日（日）に、カクイックス交流センター（鹿児島市）において開催された第82回日本歯科理工学会学術講演会にて、クラウンブリッジ補綴学講座の石川曉美大学院生が企業賞（クラレノリタケデンタル株式会社賞）を受賞した。

この賞は日本歯科理工学会学術講演会における優秀な研究発表を表彰し、研究発表の活性化が賛助会員の商品開発の大きな力となることを期待する、賛助会員のスポンサーシップによる表彰制度である。

受賞演題は「PEEK製ポストを応用したレジン支台築造の

破折様相」であった。本研究はPEEK製ポストを用いたレジン支台築造体の破壊試験を行い、歯根および支台築造体の破壊様相を既製FRCポスト併用支台築造体と比較して、PEEKの支台築造用既製ポストとしての可能性を模索することを目的とした内容である。いわゆるスーパーエンジニアリングプラスチックに分類されるPEEKは、昨年末に歯冠修復材料として保険収載され、価格高騰が続く歯科用金属に変わる歯科用材料として注目されている材料である。今後のさらなる調査・解明が期待される。



◀受賞した石川大学院生（中央）と服部雅之教授（左）、関根秀志教授

立澤孝太郎レジデント The 65th Congress of Korean Association of Oral & Maxillofacial Surgeonsにて口演で最優秀賞を受賞

2024年4月11日（木）から13日（土）に、韓国ソウルにおいて開催された大韓口腔外科学会が主催するThe 65th Congress of Korean Association of Oral & Maxillofacial Surgeonsにて、口腔病態外科学講座の立澤孝太郎レジデントが最優秀賞の1st-Prize Oral Presenterを受賞した。本研究は立澤レジデントの学位論文のテーマでもあり、ウェルビーイングプロジェクト（旧顎骨疾患プロジェクト）の助成を受け、Fablab TDCにおいて同講座の片倉 朗教授、菅原圭亮准教授、小谷地雅秀助教、解剖学講座の松永 智准教授、歯科放射線学講座の小高研人講師を中心に共同で行ったものである。

口演内容は、患者の整容面および機能面に大きく関与するオトガイ形成術においてComputer-aided design/manufacturing（CAD/CAM）技術とMixed Reality（MR）技術を併用することで、従来の術者の経験や技術に頼る方法ではない新たなオトガイ形成術のアプローチを確立することを目的とし、その手術精度を報告したものである。先行研究である小谷地助教らのLe Fort I 骨切り術に応用した報告より発展させ、大きさや形状を改良した新規のレジストレーションマーカーを製作し、さらにHead-mounted display

（HMD）であるMicrosoft® HoloLens 2（Microsoft社）によるMR技術の2つの技術を用いて、オトガイ形成術でのオトガイ骨片の移動時における術前計画の再現性および正確性について検討を行った。

近年、術前シミュレーションであるヴァーチャルサージカルプランニング（VSP）を手術中に再現する方法としてCAD/CAM技術を使用した顎矯正手術が行われているが、計画どおりに手術が行われているかを術中に確認することは困難であった。そこで、MR技術搭載HMDである HoloLens 2を術中に装着し、VSPからデザイン製作した三次元ホログラムを術野に重ね合わせながら手術を行う方法を開発した。CAD/CAM+MR群16例とCAD/CAMデバイスのみを用いた対象群10例で2群間比較を行い、3D surface analysisでは誤差1mm以内の精度および上下方向軸中心回転のYaw回転において、精度においてCAD/CAM+MR群で有意な精度向上を認めた。

この報告はオトガイ形成術ではじめてMR技術を用い、高い手術精度を示したものである。今後はさらなる予見性の高いオトガイ形成術の確立を目指している。



▲受賞した立澤レジデント（左）と大韓口腔外科学会 Bu-Kyu Lee 理事長



▲受賞した立澤レジデント（中央右）と片倉教授（左）、菅原准教授（右）、小谷地助教

東京歯科大学口腔がんセンターにて 歯科大学で全国初の口腔がん光免疫治療が実施される

2024年4月3日（水）、東京歯科大学口腔がんセンターにおいて、切除不能口腔がんに対する新規治療である光免疫治療（アルミノックス治療）が、歯科大学としては日本ではじめて行われた。

本治療は薬剤と光を組み合わせたまったく新しい概念の口腔がん治療であり、2023年12月に歯科口腔外科領域で保険収載された。実際の手技としては、光増感剤を結合させた分子標的治療薬であるセツキシマブ - サロカロタンナトリウムを前日に点滴静注し、翌日、腫瘍周囲から中心部にかけて専用のニードルカテーテルを複数本穿刺し、690nmのレーザー光を照射する。これによりレーザー光と薬剤に含まれる色素が反応し、がん細胞の膜が破壊され、がん細胞が死滅す

る。本治療を行った後は光過敏症を生じる可能性があるため、直射日光が当たらないよう半暗室管理が必要となる。また、照射後の一時的な疼痛や気道浮腫による気道閉塞への対応が必要なため、事前に病棟、手術室、麻酔科および院内関連各科との複数回にわたる綿密なシミュレーションとリハーサルが行われた。このような各科との緊密な連携のもと、今回の治療実施が実現した。

本治療は、これまで治療の手立てがなかった再発患者に対する画期的治療であり、新たな口腔がん治療の選択肢を得ることができた。口腔がんセンターでは、今後も新規治療を積極的に取り入れ、高い水準で口腔がん治療を提供していく。



▲口腔がんセンター歯科医師、歯科麻酔科医、病棟・ICU・手術室の看護師、臨床工学士による合同治療リハーサル中の様子



▲治療直前の光照射部位について、頭頸部アルミノックス治療運営委員会から派遣された頭頸部外科指導医とともに最終的な穿刺・刺入部位を確認している様子



▲ニードルカテーテル挿入前、シリンドリカルディフューザーをキャリブレーションした後の様子



▲ニードルカテーテルを挿入し、腫瘍内部にレーザー光を照射している様子

村上 侑非常勤講師

日本歯科保存学会2024年度春季学術大会 (第160回) にて奨励賞を受賞

2024年5月16日(木)と17日(金)に、仙台国際センター(仙台市)において開催された日本歯科保存学会2024年度春季学術大会(第160回)にて、歯周病学講座の村上 侑非常勤講師が日本歯科保存学会奨励賞を受賞した。本賞は、歯科保存学の領域において優れた業績をあげた日本歯科保存学会の会員を表彰するとともに、若手研究者の育成を目的に雑誌掲載論文を審査対象として表彰するものである。受賞論文は「Healing of experimental periodontal defects following treatment with fibroblast growth factor-2 and deproteinized bovine bone mineral」であり、国際誌Biomoleculesに掲載されている。

研究内容は、成長因子の1つである塩基性線維芽細胞増殖因子(FGF-2)と足場材である脱タンパクウシ骨ミネラル(DBBM)の併用が、歯周組織治癒に及ぼす影響について、*in vivo*および*in vitro*の観点から検討したものである。本研究では、DBBMがFGF-2の足場・担体として機能する可能性を示したことに加え、FGF-2とDBBMの併用が細胞増殖の増加、血管形成の調節、骨芽細胞分化などを促し、歯周組織治



▲受賞した村上非常勤講師(右)と齋藤 淳教授(左)

癒を促進することを見出した点が評価され受賞に至った。今回の知見をもとにさらにメカニズムの解析を含めた研究を行うことにより、効果的かつ安全な歯周組織再生療法の確立への足掛かりになることが期待される。

古澤成博客員教授 日本歯科保存学会学会賞を受賞

2024年5月16日(木)と17日(金)に、仙台国際センター(仙台市)において開催された日本歯科保存学会2024年度春季学術大会(第160回)にて、歯内療法学講座前教授の古澤成博客員教授が日本歯科保存学会学会賞を受賞した。

同学会において、教育問題委員会委員、表彰委員会副委員長、学術用語委員会委員長などを歴任し、第158回の本学会(松江市開催)では大会長を務め、歯科保存学分野に多大な学術的貢献をするとともに、日本歯科保存学会の発展に指導的役割を果たしたと評価された。当日は総会において林 美加子日本歯科保存学会理事長より表彰状および記念の盾、金一封が贈呈された。



▲受賞した古澤客員教授(左)と林日本歯科保存学会理事長

■ 千代田区立図書館との相互協力事業による出張利用者登録実施

2024年4月19日（金）午後3時より、水道橋校舎本館短期大学ラウンジにおいて、千代田区立図書館の出張利用者登録とWeb図書館の紹介を実施した。本事業は東京歯科大学図書館と千代田区立図書館の相互協力の一環として行われたものである。今回は短期大学の第1学年を対象に、情報リテラシー講義の終了後、ラウンジに特別ブースを設けて実施

し、14名の学生が実際に登録した。

千代田区立図書館のWeb図書館は、貸出券を作成すればスマートフォンなどを使って、オンラインで書籍や雑誌を読む、音楽配信サイトで音楽を聴く、といったサービスを利用することができる。



▲千代田区立図書館スタッフによる説明の様子



▲利用登録の様子

■ 卒業アルバム寄贈のお願い

図書館では東京歯科大学とその前身である東京歯科医学専門学校時代からの卒業アルバムを所蔵しています。一部、未所蔵の年次がありますので、お持ちの方は寄贈をご検討ください。卒業アルバムは水道橋校舎新館図書館にて利用可能（館内閲覧限定）です。

所蔵している卒業アルバムは図書館ホームページから確認できます。

図書館ホームページ▶左メニュー「資料を探す」▶「学位論文 / 卒業論文 / 卒業アルバム」

第117回歯科医師国家試験結果報告

第117回歯科医師国家試験が2024年1月27日（土）、28日（日）の両日に実施され、3月15日（金）に合格者が発表された。今回の受験者は全国で3,104名、合格者は2,058名。

本学からは、2024年3月卒業の第129期生121名、既卒者10名の計131名が受験し、見事128名が合格した。合格

率97.7%（新卒者99.2%、既卒者80.0%）という数字で、全国29歯科大学歯学部（国公私立）の総合1位（新卒、既卒ともに1位）という輝かしい成績を取めた。なお、全国平均の合格率は66.3%となっている。



▲一堂に集まり主任・副主任より激励を受ける受験生



▲春山亜貴子副主任らの激励を受ける受験生



▲竜 正大副主任の激励を受ける受験生

第129期卒業生から大学へ卒業記念品贈呈

第129期卒業生より卒業記念品として、大学の施設備品費用として金50万円が大学に寄贈された。

2024年度新生・編入生合同オリエンテーション実施

2024年4月1日（月）午後1時より、さいかち坂校舎第1講義室において、新生・編入生を対象としたオリエンテーションが実施された。

石塚洋一学生副部長の司会のもと、一戸達也学長の挨拶に始まり、山本 仁副学長より本学の指導方針について説明がなされ、高際 睦教養科目協議会幹事および阿部伸一教務部長より挨拶があった。続いて笠原正貴学生部長より学年主任、副主任の紹介があり、第1学年主任の高際教授と副主

任、第2学年主任の石川 昂教授学年主任および副主任が挨拶した。

これから学生生活をともにしていく仲間とはじめて会し、さっそく近くの席の学生同士で、緊張しながらもすぐに打ち解け、楽しく会話をしている姿が教室内で見ることができた。

最後に、学生証用写真撮影を行い、オリエンテーションは無事終了した。

第129期卒業生謝恩会開催

2024年3月11日（月）午後6時より、東京ドームホテル「天空」（文京区）において、第129期卒業生謝恩会が開催された。去年の開催が4年振り、今年はさらにコロナ禍前の開催規模に戻り、より出席者の多い式となった。謝恩会委員は、国家試験が終わった後もメンバーで教室に集まり、会の進行から招待状の作成などさまざまな準備に時間をかけていた。

当日は、謝恩会実行委員長の松本 慶さんの開式の辞に続

いて、井出吉信理事長、一戸達也学長、富山雅史同窓会長の祝辞、西山 潔父兄会長の謝辞・乾杯で歓談に入った。歓談途中、デンツプライ賞およびストローマン・アワード受賞者が発表され、内田晃平さんと井内茉莉奈さんにそれぞれ手渡された。続いて、在学中に129期生の修学指導を担当した学年主任ならびに副主任の先生方に感謝の花束贈呈が学生代表より行われ、歴代の学年主任を務めた先生方からお祝いの言



▲司会の奥森さんと山本さん



▲学年主任を務めた阿部教授



▲ストローマン・アワードを受賞した井内さん



▲デンツプライシロナ賞を受賞した内田さん



▲恩師を囲んで



▲クラス会名称発表

葉が贈られた。会の進行は、奥森麻歩さんと山本莉奈さんの明るく朗らかな司会により、さらに彩られた。

謝恩会の後半、129期卒業準備委員長の金輪英俊さんより、クラス会の名称が「百福（ももふく）会」と発表された。129という数字は百（100）福（29）と読み替えられ、ここに東京歯科大学の目的である「人類の福祉に貢献する」決意を込めていること、また129期卒業生が幸福にあふれた

卒後を歩めるよう願いが込められていることについて説明があった。

感謝や喜びにあふれる時間に始まった謝恩会は瞬間に進み、最後のセレモニーを迎えた。5年ぶりに声をそろえて歌われる校歌は、開場内を一つにし、最後は謝恩会実行副委員長の番園紘之さんからの閉会の挨拶で締められ、盛会のうちに終了となった。



学生会主催新入生オリエンテーション・クラブ紹介開催

2024年4月20日（土）午前10時より、水道橋校舎新館校舎および血脇記念ホールにおいて、学生会東歯祭実行委員主催による恒例の新入生オリエンテーションが開催された。

午前中は各クラブがそれぞれ、新館の実習講義室内にブースを設け、新入生向けに活動内容などについての説明がなされた。約2時間にわたり行われた説明会は、気軽に質問ができる場所として賑わった。

午後からは場所を血脇記念ホールに変更し、各クラブより工夫を凝らした紹介が行われた。実行委員の須佐美昂太さん

（第4学年）の司会で始まり、総務委員長の丸山竜太さん（第4学年）、学生部長の笠原正貴教授より挨拶がなされた。クラブ紹介は途中休憩を挟んで行われ、参加した新入生・編入生・短期大学新入生は先輩の発表を楽しみながら、自分の入部するクラブを真剣な表情で選んでいた。

動画作成、実演、スライド上映など、それぞれのスタイルでのクラブ紹介が行われ、今年も大盛況のうちに学生会主催新入生オリエンテーションを終えることができた。



▲ゴルフ部ブース



▲ボーリング部ブース



▲国際医療研究会ブース



▲演舞する少林寺拳法部



▲バレーボール部のクラブ紹介



▲ダンス部はダンスを披露

令和6年三崎神社例大祭参加

2024年5月4日、5日の2日間にわたり、6年ぶりとなる三崎神社例大祭が執り行われ、本学から東歯祭実行委員長の須佐美昂太さん（第4学年）が5月4日の町会神輿渡御に参加した。

10時30分、御神酒所での3本締めで神輿が勢いよく動き出し、白山通りを水道橋方面に向かい、水道橋校舎本館の前を通過し、庭のホテル前までをまずは渡り歩いた。そこから

さらに9つの神輿が一同に会し、首都高をバックに専大通りのオフィスビル群を抜けていく様は、圧巻であった。須佐美さんからは次の感想をもらった。

「三崎神社例大祭に参加することで、神田を中心とした江戸の町に根付き地域を大切にする人々の活気や思い入れ、今後もこの祭りを後世まで传承しようとする人々の思いや責任感を、肌で感じることができました。」



▲お祭りの様子



▲神輿を担ぐ須佐美さん（中央）

2024年度東京歯科大学短期大学専攻科歯科衛生学専攻入学者選抜試験実施

2024年度東京歯科大学短期大学専攻科歯科衛生学専攻入学者選抜試験が、水道橋校舎本館14階において、2023年11月25日（土）にⅠ期、2024年1月27日（土）にⅡ期が実施

された。志願者数は、Ⅰ期10名、Ⅱ期2名であった。専攻科入学試験は小論文および面接を実施した。受験生には郵送にて結果発表を行った。

東京歯科大学短期大学一般選抜試験説明会開催

2023年12月2日（土）午後2時より、水道橋校舎本館短期大学教室において、一般選抜試験説明会が開催され、本学への受験希望者18名が参加した。

当日は2025年度一般選抜試験、総合型選抜試験の受験予定者と、専攻科受験希望者および2026年度以降の入学希望者の参加となった。鳥山佳則短期大学学長の挨拶に続き、菅野亜紀教務部長による学生生活・本学の特徴について説明後、小林友忠事務部長より2025年度一般選抜試験および総合型選抜試験について、入学試験に向けた具体的な勉強方法のアドバイスを含めて説明が行われた。

休憩をはさみ、総合型選抜試験対策として、模擬授業を聴

講し例題に解答するという体験が行われた。次に短期大学実験室に移動し、入学後の学修に対する具体的なイメージに繋がるスケーリングやバキュームテクニックなどのデモンストラーションの見学が行われた。その後、少人数に分かれて、臨床実習の主体となる水道橋病院の診療室、水道橋校舎本館図書館、水道橋校舎西棟短期大学実習室の施設見学が短期大学教員の引率により行われた。見学終了後、希望者には水道橋校舎本館短期大学ラウンジにて個別相談が行われ、講義の内容、学生生活、専攻科についてなどさまざまな質問に対して教職員が対応にあたった。

2024年度東京歯科大学短期大学歯科衛生学科入学者選抜試験実施

2024年度東京歯科大学短期大学歯科衛生学科入学者選抜試験が、水道橋校舎本館14階（一部13階）教室において、2023年10月14日（土）に総合型選抜（Ⅰ期）、2023年11月11日（土）に学校推薦型選抜／学士選抜、2024年2月3日（土）に一般選抜、2024年3月2日（土）に総合型選抜（Ⅱ期）が実施された。選考については、書類審査（調査

書）に加え、総合型選抜は聴講記述試験および面接、学校推薦型選抜は基礎学力試験および面接、学士選抜は小論文および面接、一般選抜は学科総合試験、面接前記述試験および面接を実施した。受験者には、インターネットおよび郵送にて結果発表を行った。

第33回歯科衛生士国家試験結果報告

2024年3月3日（日）、第33回歯科衛生士国家試験が、全国11か所の試験会場において一斉に実施された。短期大学第5期生50名は東京会場である大妻女子大学（千代田区）にて全員受験した。

試験当日は午前7時30分から検温確認後に試験会場への入場が開始され、短期大学教員より激励を受けた学生たちは、いつもより少し緊張した面持ちで入室していった。試験は四肢択一および四肢択二のマークシート方式で行われ、午前午後それぞれ110問、合計220問が出題され、午後4時に終了した。学生たちはすべてを出し切ったすがすがしい表情を浮かべ、試験会場をあとにした。

2024年3月26日（火）午後2時に、厚生労働省および一般財団法人歯科医療振興財団より合格者発表が行われた。第5期生は全員合格し、第1回歯科衛生士国家試験開始以来、

東京歯科大学歯科衛生士専門学校から継続している合格率100%を堅持することができた。なお、全国の受験者総数は過去最高人数の7,950名のうち合格者は7,346名で、合格率は過去最低の昨年よりさらに低くなり92.4%であった。



▲第5期生集合写真

2023年度東京歯科大学短期大学専攻科歯科衛生学専攻修了式開催

2024年3月8日（金）午後1時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、2023年度東京歯科大学短期大学専攻科（第4期生）修了式が、第73回東京歯科大学短期大学卒業証書授与式に先立ち行われた。

修了式は片田英憲学生部長の開式の辞に始まり、菅野亜紀教務部長により修了者（第4期生）12名全員が呼名され、修了者代表の中島梨緒さんへ鳥山佳則短期大学学長より修了証が授与された。また修了者は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の学位審査に合格し、学士（口腔保健学）

の称号が授与されており、鳥山学長より学位記が手渡された。また記念品贈呈式では、在校生代表の山岡未空さんから修了者代表の芦沢美夢さんへ花束が贈呈され、すべての式事が終了した。

専攻科においては、指導教員との連携を密に取りながら、成果ある研究活動を遂行し、また歯科衛生士の免許を所持しながら、多くの臨床実習先で経験を深めた1年であった。

式の終了後、1年間学んだ水道橋校舎本館14階に戻り、ともに研究を行った仲間と恩師を囲んで記念撮影を行った。



◀鳥山短期大学学長より修了証および学位記を授与される代表の中島さん



◀東京歯科大学短期大学専攻科第4期生修了式後の集合写真

第73回 東京歯科大学短期大学 卒業証書授与式挙行

2024年3月8日（金）午後1時より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、第73回東京歯科大学短期大学卒業証書・学位記授与式が挙行された。

片田英憲学生部長の開式の辞に始まり、国歌斉唱、菅野亜紀教務部長による学事報告が行われた。その後、卒業生である第5期生50名全員が呼名され、卒業生を代表して、エーサン ビジュアルさんへ鳥山佳則短期大学学長より卒業証書が授与された。

褒賞授与としては、在学中の学業成績が特に優秀であったエーサンさんに学長賞、在学中の学業成績が優秀であった堀 叶さん、佐川奈桜さん、西村莉緒さん、牛坂胡桃さん、一樂りささんの5名に優等賞、在学期間中出席が極めて良好で、なおかつ成績上位であった伊藤舞香さん、牛坂さん、鬼澤あかりさん、倉橋美羽さん、佐川さん、富田眞子さん、野中麻友子さん、エーサンさん、堀さんの9名に精励賞が授与された。その後、鳥山学長の告辞、来賓の学校法人東京歯

科大学の井出吉信理事長、東京歯科大学の一戸達也学長、短期大学同窓会の市川明美会長からご祝辞をいただいた。

在校生を代表して第2学年の大須賀彩乃さんによる卒業生への送辞に引き続き、卒業生を代表してエーサンさんが3年間をともに過ごした友人、諸先生方への感謝の思いや後輩たちへの励ましの言葉に満ちた答辞を述べた。

数年に及んだ新型コロナウイルス感染対策が緩和され、参列者の人数制限や校歌斉唱などの制限がなく挙行することができたはじめての卒業証書授与式は、多くの参列者に見守られながら厳かに幕を閉じた。

引き続き行われた記念品贈呈式では、卒業生一同より短期大学ヘカッティングマシンが、短期大学同窓会より卒業生へ記念品の袱紗が、在校生代表の安達梨乃さんから卒業生代表の一樂さんへ花束が贈呈された。

そして最後に3年間一緒に学んだ仲間と恩師を囲んで記念撮影を行い、すべての行事が終了した。



▲祝辞を述べる市川短期大学同窓会長



▲卒業証書授与式の様子

告 辞

東京歯科大学短期大学
学長

鳥山 佳則



令和5年度、東京歯科大学短期大学卒業証書授与式の開催に際し、職員を代表してお祝いを申し上げます。

第5期生50名の皆さん、卒業、誠におめでとうございます。あわせて学生を支えてくださった保護者の方々に心からお礼申し上げます。

皆さんが入学した令和3年4月は新型コロナウイルス感染症の大流行が継続中であり、一部はオンライン講義を行い、登校時には校舎への入館時から教室の中まで入念な感染防止を実行し、絶えず緊張感が漂っていました。それから3年経過し、本日、短期大学としてははじめて平常な形式で卒業式を開催できることは感慨深いものがあります。

皆さんは3年間の学生生活を振り返って、どうだったでしょうか。1年生の科目数は、予想以上に多くありませんでしたか？ 2年生後期からの臨床実習では、心身ともに疲れながらも多くのことを学びましたか？ 昨年9月にこの血脇記念ホールで行われた卒業研究発表会では、思うどおりの発表ができましたか？ 総合演習では、卒業試験や国家試験に向けての知識の整理ができましたか？ そして、東京歯科大学短期大学での3年間での成長を実感できているでしょうか？

私は、1年次、2年次、3年次と講義を担当し、皆さんの成長を直接感じています。また、皆さんの成長を通じて、職員がさらに成長できたことに感謝しています。

さて、3月3日には第33回歯科衛生士国家試験が実施されました。全員が無事に合格し、4月から歯科衛生士としてスタートすることを楽しみにしています。歯科衛生士の活躍の場が拡がり、その需要が年々増加しています。本学には毎年非常に多くの求人があり、このことは本学卒業生への期待の大きさの表れです。

卒業生のうち10名が専攻科に進学し、水道橋病院、市川総合病院、千葉歯科医療センターの3施設にはあわせて6名が採用されることになりました。卒業生一人ひとりがそれぞれの職場で活躍することを大いに期待しています。

国家資格である歯科衛生士免許を得ることは、生涯にわたり自ら問題意識を持ち学び続けることです。本学での学びは3年間でしたが、歯科衛生士としての学びは30年間といっても過言ではありません。ディプロマポリシーで掲げた教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、地域社会のさまざまな場に対応していくことが求められています。

皆さんは、これから一人の社会人として多くの経験を積み重ねますが、それらは楽しい経験ばかりではありません。しかし、つらい経験やブランクがあっても、1年でも長く歯科衛生士として人々の健康に貢献することを期待しています。

むすびに、卒業生、保護者の皆様、ご臨席いただいた来賓の方々のご多幸を祈念し、私の告辞といたします。

祝 辞

学校法人 東京歯科大学
理事長

井出 吉信



東京歯科大学短期大学第5期生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、保育園、幼稚園時代から今日まで長きにわたり学業を支えてこられたご家族の皆様にも、敬意を込めて心よりお祝いを申し上げます。

今日の超高齢社会では、誤嚥性肺炎、周術期における口腔ケアなどが歯科医療における重要課題になっており、皆さんの本学での学びはまさに時代の要請となっております。

元日に令和6年能登半島地震が起き、被災された方々には心からお見舞い申し上げます。その際に、東京歯科大学も市川総合病院からDMATのチームが被災地に赴きました。また石川県の同窓の先生も、歯科衛生士さんとともに避難所で診療にあたりました。震災関連死が問題となっておりますが、多くの死因は高齢者における肺炎だと聞いております。報告によりますと、今現在でも断水が続いており、復旧工事が最大の課題だと聞いております。このことが口腔衛生状態を清潔に保てない大きな原因となり、誤嚥性肺炎に繋がると思わ

れます。

これからの皆さんは、歯科衛生士として社会における活躍が健康寿命を延ばす大きな役割を担っています。学校法人東京歯科大学は、多くの教育人と最新の設備と最先端の教育カリキュラムにより皆さんの教育にあたりましたが、皆さんは歯科衛生士としてはまだ一人前とはいえません。これからが本当の勉強だと思います。どうか自己研鑽に励んでください。その結果、皆さんは社会で活躍することができるのです。

我が国における最古の歯科衛生士教育機関である東京歯科大学短期大学の卒業生としての誇りを胸に、これからの日本の歯科医療を牽引していく存在になっていただきたいと思っております。大学はいつまでも君たちをサポートします。同時に、皆さんも大学をサポートして母校を盛り上げていただきたいと思っております。これは理事長としての願いであります。

卒業おめでとう。

祝 辞

東京歯科大学
学長

一戸 達也



東京歯科大学短期大学第5期生の皆さん、卒業おめでとうございます。そして、お子様を常に温かく励ましながら支えてこられたご家族の皆様にも、東京歯科大学学長として心からお祝いを申し上げます。

皆さんが短期大学で過ごした3年間のうちの2年間は、新型コロナウイルス感染症拡大によって、さまざまな制限の中での生活を強いられました。授業も課外活動も、友人との交流も、皆さんの思い描いていた楽しい時間を持たず、さぞかしつらく悲しい思いをしたことでしょう。しかし、そのような中であっても皆さんは与えられたチャンスを最大限に活かし、歯科衛生士になるために、そして歯科衛生士として病める患者さんたちが口腔の健康を通じて全身の健康を維持・増進できるようになるために、大変な勉学の努力を重ねてきました。この経験は、皆さんにとってかけがえのないものであり、これから歯科衛生士として活躍していく中で大きな自信となることでしょう。

皆さんはこれから歯科衛生士としての歩みを始めます。東京歯科大学短期大学に入学したときには、歯科衛生士国家試

験合格が大きな目標であったと思います。しかし今、皆さん自身が実感しているように、歯科衛生士国家試験合格は長い歯科衛生士人生のスタート台に立ったということに過ぎません。皆さんはこれから生涯にわたって、自信をもって患者さんのためにその役割を果たしていただきたいと思います。

歯科衛生士となった皆さんは、超高齢社会の中で働く医療人として、多くの職種と協働することになります。歯科医療の専門家として、さまざまな場面で専門的な知識や技能を求められることになります。病める患者さんに対する口腔健康管理の中で、皆さんは中心的な役割を果たしていかなければなりません。社会はそれを皆さんに求めています。そして、東京歯科大学短期大学を卒業した皆さんは、その資質を十分に身に付けており、歯科衛生士としての輝かしい未来が保証されています。

東京歯科大学短期大学を卒業する第5期生の皆さんの、これから生涯にわたる活躍を期待して、祝福の言葉といたします。

卒業おめでとうございます。

送 辞

在校生 代表
大須賀彩乃



冬の寒さも和らぎ始め、暖かな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。このようなよき日に、卒業生の皆様が晴れて東京歯科大学短期大学の全課程を修められ、ご卒業を迎えられましたことを、在学生一同、心からお祝い申し上げます。

先輩方が本学に入学されてから早3年、皆様にとってこの3年間はどのようなものとなりましたでしょうか。多くの出会いの中でさまざまな思い出を築き上げてこられたものと思います。また、歯科衛生士になるための勉学では、たくさんの知識を習得され、ひと回りもふた回りも大きく成長されたものと思います。また、臨床・臨地実習では、現場で得られた知識をまだ実習に慣れていない私たちに丁寧に教えてくださり、助けられたクラスメートも少なくありません。皆様方は歯科衛生士になるためのいくつもの試練を乗り越え、後輩への指導も行ってくださいました。これらの経験は、皆様のこれからの人生の中で力となり支えとなるものと確信しています。

私たち在校生は、学生生活と勉学をしっかりと両立されている先輩方を身近に感じながら、その背中を追いかけまいりました。実習先での立ち居振る舞いや押さえておくべき点を先輩方一人ひとりの言葉や行動から学んだのと同時に、私たちもこのようにできるのだろうかと憧れと不安に似た感情を抱いたのを鮮明に覚えています。先輩方の学生生活や勉学、卒業研究に対する姿勢など限られた機会の中で身をもって示されたことは、私たちにとって忘れられないものとなりました。先輩方のよき伝統をしっかりと受け継いで、これからの学校生活に活かしていけるよう精進してまいります。先輩方

にとっても、私たち在校生との交流が東京歯科大学短期大学での思い出の一つとなれば幸いです。

今、皆様は大きな希望を胸に抱いて、新しい世界へ羽ばたこうとしています。歯科衛生士として就職して歯科医療の現場に進まれる方、進学されてさらに高度な歯科医療について考究される方、進まれる道はそれぞれかと思いますが、この先、先輩方が進まれる道は、時に厳しく、大きな壁が待ち受けているかもしれません。そのような時は、この東京歯科大学短期大学で過ごした3年間の思い出や、友人、後輩、お世話になった教職員の皆方を思い出してみてください。先輩方はきっと乗り越えることができると信じています。いつも私たち在校生は心から応援しています。

卒業後も時には母校にお越しください。新たな後輩とともに私たちの成長した姿をお見せできればと思います。お会いできました際には、先輩方の素敵な笑顔をもう一度拝見できることを在学生一同、楽しみにしています。また、私たちも来年、再来年には先輩方を追いかけて、歯科衛生士として新しい世界へ羽ばたきます。歯科衛生士は、生涯自己研鑽が求められていますので、引き続き研修会など、さまざまな場面でお世話になることがあると思います。その時はこれまでと変わらずよろしく願います。

最後になりましたが、卒業生の皆様のますますのご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。本日はご卒業、誠にありがとうございます。

答 辞

第5期卒業生代表 エーサン ビシヤール



厳しい寒さがまだ残りつつも、陽ざしに温かさを感じられる季節となりました。本日このような素晴らしい日に卒業を迎えることができ、大変うれしく思います。私たちのために厳かな卒業式を挙げていただき、心より感謝申し上げます。また、井出吉信理事長をはじめご来賓の先生方、鳥山佳則学長、大学・短期大学の諸先生方のご臨席を賜り、卒業生一同御礼申し上げます。

私たち、第5期生50名が、本日卒業のよき日を迎えることができましたのは、ひとえにご臨席の先生方をはじめとした大学関係者の皆様のご指導、そして家族の支えがあつての賜物と深く感謝しております。

今日までの3年間を振り返りますと、新型コロナウイルスの影響もあり、入学後、最初の1年間は対面での講義も少なく、友人との交流もできないことやオンライン授業についていけるかなど、もどかしさや不安を感じながら学生生活をスタートさせました。しかし第2学年に進級すると、徐々にコロナ禍以前の生活に戻り、オンライン授業からほとんどが対面授業に切り替わり、友人とも対面で会話ができるようになりました。前期では相互実習や演習など、実習科目も通常どおりに行うことができ、臨床・臨地実習で即戦力として動けるよう勉学に励みました。後期では、病院での実習が始まり、学んだことをしっかり活かせるよう日々一生懸命取り組みました。時には、自身の知識や技術の不足、未熟さを痛感する場面がありましたが、診療室の先生方、直接指導くださった歯科衛生士の皆さん、親身になり話を聞いてくださった短期大学の先生方に何度となく助けていただきました。

第3学年では、臨床・臨地実習に加えて、卒業研究や国家

試験に向けての講義や対策、就職活動など多忙な日々でした。臨床・臨地実習では本学附属施設以外の歯科診療所や大学病院での実習も加わり、自分が持つ最大限の知識や技術を発揮できるよう実習に臨みました。

臨床・臨地実習が終了すると、国家試験に向けての勉強に励む毎日になりました。総合演習は3年間で学んだ科目を総復習するかたちで行われ、グループで互いに協力し合いながら国家試験に合格できるよう勉学に励みました。中には遅くまで教室で熱心に勉強している学生もおり、その姿に自分自身も感化されました。この国家試験では各々が自分の実力を存分に発揮することができたと思います。

この3年間を通して、知識や技術のみならずコミュニケーションやマナー、協調性など、これから社会へ出る上で必要なさまざまなことをこの東京歯科大学短期大学で学ぶことができました。また、いつもそばで温かく、時には厳しくご指導いただいた短期大学の先生方の支えがあり、人としても成長することができたこと、心より感謝申し上げます。

これから私たち第5期生は歯科衛生士として新たな一歩を踏み出します。一人ひとりが自ら選んだ進路において、自己研鑽に励み、地域社会の歯科保健の発展に貢献できるよう日々精進して参ります。

最後になりましたが、今日までご指導くださった先生方、在校生の皆さん、家族、お世話になったすべての方々に深く御礼申し上げます。

そして、後輩の皆様方のご活躍と、東京歯科大学短期大学の一層の発展を願い、答辞とさせていただきます。

第5期褒賞受賞者

○学長賞(1名)

エーサン ビジュアル

○優等賞(5名)

堀 叶

佐川 奈桜

西村 莉緒

牛坂 胡桃

一樂 りさ子

○精励賞(9名)

伊藤 舞香

牛坂 胡桃

鬼澤 あかり

倉橋 未羽

佐川 奈桜

富田 眞子

野中 麻友子

エーサン ビジュアル 堀 叶



▲第6期生集合写真

2024年度東京歯科大学短期大学 入学式挙行

2024年4月4日（木）午後1時30分より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、東京歯科大学短期大学歯科衛生学科の第8期生54名および同専攻科歯科衛生学専攻の第5期生12名の入学式が、ご来賓、短期大学教職員ならびに新入生保護者臨席のもと、厳粛な雰囲気の中で開催された。

古澤成博学生部長の開式の辞に始まり、国歌斉唱が行われた後、菅野亜紀教務部長より新入生が呼名され、鳥山佳則短期大学学長からの訓辞を緊張の面持ちで受けた。続いて、学校法人東京歯科大学の井出吉信理事長、東京歯科大学の一戸達也学長、東京歯科大学短期大学同窓会の市川明美会長か

らご祝辞をいただいた。

新入生代表の高木咲希さんによる誓詞の後、鳥山短期大学学長より新入生代表の山木理央さんへ徽章が授与された。最後に校歌斉唱し、式は滞りなく終了した。

入学式に引き続き、古澤学生部長より、ご臨席いただいたご来賓の方々、短期大学教職員が紹介された。その後、同会場において保護者説明会が行われ、学長、教務部長、学生部長から修学に関する事項、学生生活などについての説明が行われた。最後に記念撮影を行い、すべての行事が終了した。



▲第8期生入学式集合写真



◀徽章を授与される山本さん

訓示

東京歯科大学短期大学
学長

鳥山 佳則



新入生の皆さん、入学、誠におめでとうございます。教職員を代表し、心から歓迎し、お祝い申し上げます。第8期生となる皆さんと、これからの3年間、学校生活をともにできることを楽しみにしています。また、これまで新入生を支えてこられた保護者の皆さまに感謝申し上げます。

さて、新入生の皆さんが、これから学ぶべきことは3つあります。一つめは、歯科衛生士の業務である歯科疾患の予防処置、歯科診療補助および歯科保健指導について高い専門性を身につけ、時代に対応した歯科医療に関する知識および技能を修得することです。二つめは、高齢社会において、楽しく、おいしく、安全な食事を支援するための口腔機能の知識と技能を修得することです。そして三つめが、本学での学修の大きな特徴である「医療・福祉の各領域の視点を持ち、多職種と協働しながら、人々の健康づくりに寄与するための知識、技能、態度を修得すること」です。このため、歯科医師や歯科衛生士の教員はもとより、医師や薬剤師、看護師、管理栄養士、理学療法士など多くの職種から学ぶ機会を設けています。

2年生後期から始まる臨床実習は、水道橋病院、市川総合病院、千葉歯科医療センターという三つの施設で、それぞれの特徴に応じた実習を経験します。数多くの歯科衛生士養成校がある中で、このように充実した臨床実習が行えるのは本学だけであり、恵まれた環境を大いに活かしてください。

私たちが何よりも誇りとするのは、専任の教職員をはじめ

として、歯学部の教職員を含めすべての者が教育に熱意を持ち、着実に成果を上げていることです。

この3月に卒業した第5期生は、これまでの卒業生と同様に全員が国家試験に合格し、歯科衛生士として新たな一步を踏み出しました。

皆さんは、3年間で歯科衛生士としての専門的実践能力を身に付けるため本学で学修しますが、それには常に向上心を持ち主体的に学ぶ自己研鑽力を養い、あわせて医療人としての倫理観に基づき行動することが必要です。

講義は、おおむね2年生の前期で終了し、以降は臨床実習と国家試験対策になります。1年生の前期は、一般教養科目、基礎科目、臨床科目と多くの科目を座学で学修しますが、この時期に学修習慣を身につけることがとても重要であり、3年生での卒業試験、さらに国家試験合格への基礎となります。

学生生活全般について教職員がサポートしますが、皆さん一人ひとりが自覚を持ち、意欲的に学ぶ姿勢が何よりも大切です。患者さんの健康を守るには、自分自身が健康であることが欠かせません、毎日の健康管理を心掛けてください。

緊張感を抱きながらも、文化と教育がいきつづ、この水道橋での学生生活を大いに楽しんでください。

結びに、皆さんの学生生活がかけがえのない充実したものとなることを祈念し、私の訓示といたします。

祝 辞

学校法人 東京歯科大学
理事長

井出 吉信



東京歯科大学短期大学第8期生の皆さん、入学おめでとう
ございます。また、保護者の皆様に、学校法人東京歯科大学
の理事長として、心よりお祝い申し上げます

東京歯科大学短期大学は、1949年に日本ではじめての歯
科衛生士養成機関として創設された「東京歯科大学歯科衛生
士学校」を母体としています。開学当時の歯科衛生士の役割
は今日の歯科助手的な役割で、歯科衛生士としての主体的な
仕事はできませんでした。

私が歯科医師になった50年程前は、子どもの大多数にう
蝕があり、その治療に忙殺されていました。その頃から歯
科衛生士はう蝕予防の重要な担い手となり、歯科医療になくて
はならない存在として世間にも認知されるようになってきま
した。

そして現在、我が国の超高齢社会において、健康寿命と口
腔の健康状態の関連性が多くの研究データにより立証されて
います。このことにより、歯科衛生士の職場は、歯科医院だ
けでなく、歯科治療を行わない医科の病院にも大きく広がっ
てきています。

そのため、教育においては、口腔領域の知識だけでなく全
身疾患との関連をも学ぶことが必須となってきています。現

に今年の国家試験には、寛骨すなわち腰の骨に関する問題が
出題されました。東京歯科大学短期大学はこのことに対応す
べく、従前より短期大学の教員だけでなく歯学部の本務教員
にも教育に携わっていただいております。

また、臨床教育の場として、全国の歯科医院から紹介をい
ただき難症例が集まる都市型拠点病院である水道橋病院、全
身疾患と口腔との関連を学べる高度先進医療を行う市川総合
病院、地域に密着した医療を実践し、訪問歯科診療を学べる
千葉歯科医療センターがあります。教育環境、指導力などあ
らゆる面において、東京歯科大学短期大学は日本でもっとも
優れた歯科衛生士教育機関だといえます。

これから学ぶ3年間は、朝9時から夕方まで多くのカリ
キュラムが組まれており、時に挫折しそうに思われることが
あると思いますが、その時にはぜひ、担任の先生をはじめ教
職員に相談に行くことよと思います。私は同じ建物の5階の
理事長室におりますので、気楽にいらしてください。いつで
も歓迎します。

最後になりますが、初心を忘れず、東京歯科大学短期大学
に学ぶことに誇りを持って、充実した学生生活を送られるこ
とを祈念して、祝辞とします。

祝 辞

東京歯科大学
学長
一戸 達也



歯科衛生士となる夢を実現するために東京歯科大学短期大学の門を叩いた第8期生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今日こうして皆さんとお会いできることを、東京歯科大学学長として大変嬉しく思います。

また、これまで大切に育ててこられたお嬢様の晴れ姿をご覧になり、大きな喜びを感じていらっしゃる保護者の皆様に、東京歯科大学学長として心からお祝いを申し上げます。

皆さんが目指す歯科衛生士像はどのようなものでしょうか。街の歯科医院で歯科医師のアシスタントとして働き、患者さんのお口のクリーニングを担当する人でしょうか。それとも、大きな病院の歯科外来で歯科医師が行う手術の介助をする人でしょうか。いずれも歯科衛生士の重要な業務ではありますが、歯科衛生士の仕事はこれだけではありません。

皆さんの先輩たちは、単に歯科治療時の歯科医師のアシスタントの役割だけでなく、高齢者や障がい者に対して、地域の口腔保健センター、あるいは患者さんの入所施設やご自宅で、むし歯や歯周病を代表とする歯科疾患の進行・悪化を予防し、口腔の健康を通じて全身の健康を維持・増進するために大きな役割を果たしています。飲み込みの機能の維持・回

復を通じて、我が国の死因の上位にランクされる誤嚥性肺炎を予防する役割も果たしています。さらには、病院で大きな手術を受ける患者さんの、手術前のお口の中をよりよい状態に維持する周術期口腔機能管理の主役は、まさに歯科衛生士の皆さんです。

歯科衛生士は、超高齢社会の中で働く医療人として、さまざまな場所において多くの職種とともに働きながら、歯科医療の専門家としての専門的な知識や技能を求められる立場なのです。このような社会に貢献できる歯科衛生士になるために、3年間しっかりと勉強していただければと願っています。

東京歯科大学では、それぞれ特徴的な機能を持つ、水道橋病院、千葉歯科医療センター、そして市川総合病院が皆さんに臨床実習の場を提供します。東京歯科大学短期大学に入学したというメリットを最大限に活用し、次世代のリーダーとなる歯科衛生士に育っていただきたいと願っていますし、私たちが最大限のサポートをしていきたいと思っています。

第8期生の皆さんの輝かしい将来のために、この3年間で充実したものとなることを願って、祝辞といたします。

ご入学おめでとうございます。

誓詞

第8期新入生代表
高木 咲希



本日この入学式において、学長先生よりご訓示を賜り、私たち一同は志を貫く決意を新たにいたしました。

諸先生方のご指導のもと、勉学に励み、人格を磨き、学生の本分を尽くすことを誓います。

東京歯科大学口腔科学研究センターにおけるポストドクトラル・フェロー及びリサーチ・アシスタントの任用に関する取扱い要領の一部改正

| 改正後 | 現 行 |
|---|---|
| <p>○東京歯科大学口腔科学研究センターにおけるポストドクトラル・フェロー、リサーチ・アシスタント及びスーパー・リサーチ・アシスタントの任用に関する取扱い要領</p> <p>1 東京歯科大学口腔科学研究センター(以下「同センター」という。)の研究機能の充実及び将来における高度の口腔保健医療研究者の養成を図るため、同センターにポストドクトラル・フェロー(以下「PF」という。)、リサーチ・アシスタント(以下「RA」という。)<u>及びスーパー・リサーチ・アシスタント(以下「SRA」という。)</u>を置くことができる。</p> <p>2 PF、RA <u>及び SRA</u> は、非常勤の研究職員として、同センターの研究を円滑に推進し、研究に関する補助的業務に従事する。</p> <p>3 PF、RA <u>及び SRA</u> の任用数は、口腔科学研究センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)の議を経て、人事委員会で決定する。</p> <p>4 PF、RA <u>及び SRA</u> の任用基準は、次のとおりとする。</p> <p>(1) PF：大学院博士課程を修了した者</p> <p>(2) RA：大学院博士課程の2年次以上の年次に在学する者</p> <p><u>(3) SRA：大学院博士課程の2年次以上の年次に在学する者で、十分な研究遂行能力があり、将来性が極めて高いと口腔科学研究センター運営委員会及び人事委員会が認めたる者</u></p> <p>5 PF、RA <u>及び SRA</u> の任用に当たっては、次の書類を添付のうえ、同センター所長の申請により運営委員会に諮り、人事委員会に報告するものとする。</p> <p>(1) 任用願</p> <p>(2) 履歴書</p> <p>(3) その他必要な書類</p> <p>6 PF、RA <u>及び SRA</u> の任用期間は、1年以内とし、期限は年度末とする。ただし、更新することができる。</p> <p>7 同センター所長は、PF、RA <u>及び SRA</u> が任期を満了したとき又は任期途中において辞任するときは、PF、RA <u>及び SRA</u> を任用したことによる研究修了報告書並びに PF、RA <u>及び SRA</u> による研究成果報告書を提出しなければならない。</p> <p>8 PF は口腔科学研究センター所属教育職員及び学長が指名した教育職員によるキャリア開発能力の向上に対する支援を受けるものとする。</p> <p>9 この取扱いの改廃は、運営委員会の議を経て、人事委員会の承認を得るものとする。</p> <p>10 この取扱いは、平成9年2月1日から実施する。</p> <p>附 則 この取扱いは、令和6年4月1日から実施する。</p> | <p>○東京歯科大学口腔科学研究センターにおけるポストドクトラル・フェロー及びリサーチ・アシスタントの任用に関する取扱い要領</p> <p>1 東京歯科大学口腔科学研究センター(以下「同センター」という。)の研究機能の充実及び将来における高度の口腔保健医療研究者の養成を図るため、同センターにポストドクトラル・フェロー(以下「PF」という。)<u>及びリサーチ・アシスタント(以下「RA」という。)</u>を置くことができる。</p> <p>2 PF及びRAは、非常勤の研究職員として、同センターの研究を円滑に推進し、研究に関する補助的業務に従事する。</p> <p>3 PF及びRAの任用数は、口腔科学研究センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)の議を経て、人事委員会で決定する。</p> <p>4 PF及びRAの任用基準は、次のとおりとする。</p> <p>(1) PF：大学院博士課程を修了した者</p> <p>(2) RA：大学院博士課程の2年次以上の年次に在学する者</p> <p>5 PF及びRAの任用に当たっては、次の書類を添付のうえ、同センター所長の申請により運営委員会に諮り、人事委員会に報告するものとする。</p> <p>(1) 任用願</p> <p>(2) 履歴書</p> <p>(3) その他必要な書類</p> <p>6 PF及びRAの任用期間は、1年以内とし、期限は年度末とする。ただし、更新することができる。</p> <p>7 同センター所長は、PF及びRAが任期を満了したとき又は任期途中において辞任するときは、PF及びRAを任用したことによる研究修了報告書並びにPF及びRAによる研究成果報告書を提出しなければならない。</p> <p>8 PFは口腔科学研究センター所属教育職員及び学長が指名した教育職員によるキャリア開発能力の向上に対する支援を受けるものとする。</p> <p>9 この取扱いの改廃は、運営委員会の議を経て、人事委員会の承認を得るものとする。</p> <p>10 この取扱いは、平成9年2月1日から実施する。</p> |

東京歯科大学口腔科学研究センターにおけるポストドクトラル・フェロー及びリサーチ・アシスタントの任用に関する申し合わせの一部改正

| 改正後 | 現 行 |
|---|--|
| <p>○東京歯科大学口腔科学研究センターにおけるポストドクトラル・フェロー、リサーチ・アシスタント及びスーパー・リサーチ・アシスタントの任用に関する申し合わせ</p> <p>1 <u>ポストドクトラル・フェロー(以下「PF」という。)</u>、<u>リサーチ・アシスタント(以下「RA」という。)</u>及び<u>スーパー・リサーチ・アシスタント(以下「SRA」という。)</u>の任用定数については、次のとおりとする。</p> <p>(1) PF 2名以内</p> <p>(2) <u>RA及びSRA</u> RAとSRA合わせて10名以内とし、<u>SRAは最大2名までとする</u></p> <p>2 PF、<u>RA及びSRA</u>の勤務日数は、週5日以内とする。ただし、<u>RA及びSRA</u>の勤務時間は、原則として1日4時間以内とする。</p> <p>3 <u>RA及びSRA</u>の勤務時間数の算定に当たっては、1時間を単位とし、30分未満は切り捨て、30分以上は切り上げて1時間とする。</p> <p>4 PFの手当は日給、<u>RA及びSRA</u>の手当は時給とし、人事委員会で決定する。</p> <p>5 超勤、交通費、賞与は支給しない。</p> <p>6 手当は、1日から末日までを計算期間として、翌月25日に支給する。ただし、25日が土曜日、休日に当たる場合は、その前日とする。</p> <p>7 PF、<u>RA及びSRA</u>は、勤務日数又は勤務時間数を「勤務報告書」により、勤務月の翌月の10日までに各プロジェクトコーディネーター及びセンター副所長(市川総合病院にあつては副院長長)の承認を得て、各施設の庶務課に提出するものとする。</p> <p>8 この申し合わせの改正は、口腔科学研究センター運営委員会の議を経て、人事委員会の承認を得るものとする。</p> <p>9 この申し合わせは、平成9年2月1日から実施する。</p> <p>附 則 この申し合わせは、令和6年4月1日から実施する。</p> | <p>○東京歯科大学口腔科学研究センターにおけるポストドクトラル・フェロー及びリサーチ・アシスタントの任用に関する申し合わせ</p> <p>1 PF及びRAの任用定数については、次のとおりとする。</p> <p>(1) PF 2名以内</p> <p>(2) RA 10名以内</p> <p>2 PF及びRAの勤務日数は、週5日以内とする。ただし、RAの勤務時間は、原則として1日4時間以内とする。</p> <p>3 RAの勤務時間数の算定に当たっては、1時間を単位とし、30分未満は切り捨て、30分以上は切り上げて1時間とする。</p> <p>4 PFの手当は日給、RAの手当は時給とし、人事委員会で決定する。</p> <p>5 超勤、交通費、賞与は支給しない。</p> <p>6 手当は、1日から末日までを計算期間として、翌月25日に支給する。ただし、25日が土曜日、休日に当たる場合は、その前日とする。</p> <p>7 PF及びRAは、勤務日数又は勤務時間数を「勤務報告書」により、勤務月の翌月の10日までに各プロジェクトコーディネーター及びセンター副所長(市川総合病院にあつては副院長)の承認を得て、各施設の庶務課に提出するものとする。</p> <p>8 この申し合わせの改正は、口腔科学研究センター運営委員会の議を経て、人事委員会の承認を得るものとする。</p> <p>9 この申し合わせは、平成9年2月1日から実施する。</p> |

パートタイム職員就業規則の一部改正

※改正箇所のみ摘記

| 改正後 | | | | | | | | | | 現 行 | | | | |
|---|---------|------------|---------|---------|---------|---------|-----|---------|----|--|----|----|----|----|
| <p>(年次有給休暇) 第9条 <u>パートタイム職員</u>に対し、次のとおり年次有給休暇を付与する。</p> <p>(1) <u>パートタイム職員</u>として採用された年度の年次有給休暇の日数は、採用月および週所定労働日数に応じて次のとおりとし、採用日にこれを付与する。</p> | | | | | | | | | | <p>(年次有給休暇) 第9条 <u>パートタイム職員</u>の年次有給休暇に関しては、労働基準法その他の法令の定める日数のほかに次の日数を加えて付与する。 (1) 採用年度については、7月以前に採用された者について、採用月に応じて採用年度の7月に次の日数を付与する。</p> | | | | |
| 初年度 | | 採用月および付与日数 | | | | | | | | 採用月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 |
| 週所定労働時間 | 週所定労働日数 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 付与日 | 7月 | 7月 | 7月 | 7月 | | |
| 30時間以上 | | 15日 | 13日 | 12日 | 11日 | 10日 | 10日 | 週所定就業日数 | 5日 | 5 | 3 | 2 | 1 | |
| 30時間未満 | 5日 | 11日 | 9日 | 9日 | 8日 | 7日 | 7日 | | 4日 | 4 | 2 | 2 | 1 | |
| | 4日 | 8日 | 7日 | 6日 | 6日 | 5日 | 5日 | | 3日 | 3 | 2 | 1 | 1 | |
| | 3日 | 5日 | 4日 | 4日 | 3日 | 3日 | 3日 | | 2日 | 2 | 1 | 1 | 0 | |
| | 2日 | 2日 | 2日 | 1日 | 1日 | 1日 | 1日 | | 1日 | 1 | 1 | 0 | 0 | |
| 初年度 | | 採用月および付与日数 | | | | | | | | 採用月 | — | | | |
| 週所定労働時間 | 週所定労働日数 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 付与日 | 7月 | | | | | |
| 30時間以上 | | 6日 | 5日 | 4日 | 3日 | 2日 | 1日 | 週所定就業日数 | 5日 | 5 | | | | |
| 30時間未満 | 5日 | 4日 | 3日 | 3日 | 2日 | 1日 | 0日 | | 4日 | 4 | | | | |
| | 4日 | 3日 | 2日 | 2日 | 1日 | 1日 | 0日 | | 3日 | 3 | | | | |
| | 3日 | 2日 | 1日 | 1日 | 0日 | 0日 | 0日 | | 2日 | 2 | | | | |
| | 2日 | 1日 | 0日 | 0日 | 0日 | 0日 | 0日 | | 1日 | 1 | | | | |
| <p>(2) 前号の翌年度以降の年次有給休暇の日数は、勤続年数および週所定労働日数に応じて次のとおりとし、毎年4月1日にこれを付与する。ただし、前年度の所定労働日数の8割以上出勤しなかった者については、翌年度の年次有給休暇は採用された年度の翌年度の付与日数と同じとする。</p> | | | | | | | | | | <p>(2) 採用の翌年度以降は、採用月にかかわらず、毎年度の7月に週所定就業日数に応じて最大5日を付与する。</p> | | | | |
| 翌年度以降 | | 勤務年数及び付与日数 | | | | | | | | 採用月 | — | | | |
| 週所定労働時間 | 週所定労働日数 | 1年以下 | 1年超2年以下 | 2年超3年以下 | 3年超4年以下 | 4年超5年以下 | 5年超 | 付与日 | 7月 | | | | | |
| 30時間以上 | | 16日 | 17日 | 19日 | 21日 | 23日 | 25日 | 週所定就業日数 | 5日 | 5 | | | | |
| 30時間未満 | 5日 | 12日 | 13日 | 14日 | 16日 | 17日 | 19日 | | 4日 | 4 | | | | |
| | 4日 | 9日 | 9日 | 11日 | 12日 | 13日 | 14日 | | 3日 | 3 | | | | |
| | 3日 | 6日 | 6日 | 7日 | 8日 | 8日 | 9日 | | 2日 | 2 | | | | |
| | 2日 | 3日 | 3日 | 3日 | 4日 | 4日 | 4日 | | 1日 | 1 | | | | |
| <p>2 当年度内の残存保有日数のうち、翌年度の初日において付与日から2年を経過しない分については、20日を限度として翌年度に繰り越すことができる。</p> <p>3 第1項の年次有給休暇が10日以上与えられたパートタイム職員に対しては、付与日から1年以内に、当該パートタイム職員の有する年次有給休暇日数のうち5日について、本法人が当該者に意見を聴取し、その意見を尊重した上で、あらかじめ時季を指定して取得させる。ただし、当該者が時季指定によらず年次有給休暇を取得した場合においては、当該取得した日数分を5日から控除するものとする。</p> <p>第10条 年次有給休暇を取得した場合には、当該者の契約に応じて賃金(時間給又は日給)を支給するものとする。</p> | | | | | | | | | | <p>第10条 年次有給休暇を取得した場合には、当該者の契約に応じて賃金(時間給又は日給)を支給するものとする。</p> | | | | |
| <p>附 則 この規程は、令和6年4月1日から施行する。</p> | | | | | | | | | | | | | | |

学校法人東京歯科大学給与規程の一部改正

※改正箇所のみ摘記

| 改正後 | 現 行 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------------------------------|------------|-----|------------|---------|-------|-----|---------|-----|------|---|-----|------------|-----|------------------------------|-----|---------|-----|------|
| <p>(長期欠勤者の給与)</p> <p>第23条 職員が傷病のため1カ月以上欠勤する場合は、つぎの区分に従って給与の全額を支給することができる。ただし、業務上の傷病については法令の定めるところによる。</p> <p>勤続3年以内の者 1カ月間 勤続3年を超え5年以内の者 3カ月間 勤続5年を超え7年以内の者 4カ月間 勤続7年を超え10年以内の者 5カ月間 勤続10年を超え20年以内の者 6カ月間 勤続20年を超え30年以内の者 9カ月間 勤続30年を超えた者 12カ月間</p> <p>2 前項の計算は、欠勤した日から起算する。</p> <p>3 長期欠勤者が出勤し、理由のいかんにかかわらず、<u>1年以内</u>に再び欠勤したときは、その前後の欠勤は連続したものと見なして欠勤期間を通算する。</p> <p>別表6 等級別標準職務表 <別表3 医療職員俸給表(2)></p> <table border="1"> <tr><td>1等級</td><td>看護部長、副看護部長</td></tr> <tr><td>2等級</td><td>削除、削除、看護師長</td></tr> <tr><td>3等級(新設)</td><td>主任看護師</td></tr> <tr><td>4等級</td><td>助産師、看護師</td></tr> <tr><td>5等級</td><td>准看護師</td></tr> </table> <p>附 則 この規程は、令和6年4月1日から施行する。</p> | 1等級 | 看護部長、副看護部長 | 2等級 | 削除、削除、看護師長 | 3等級(新設) | 主任看護師 | 4等級 | 助産師、看護師 | 5等級 | 准看護師 | <p>(長期欠勤者の給与)</p> <p>第23条 職員が傷病のため1カ月以上欠勤する場合は、つぎの区分に従って給与の全額を支給することができる。ただし、業務上の傷病については法令の定めるところによる。</p> <p>勤続3年以内の者 1カ月間 勤続3年を超え5年以内の者 3カ月間 勤続5年を超え7年以内の者 4カ月間 勤続7年を超え10年以内の者 5カ月間 勤続10年を超え20年以内の者 6カ月間 勤続20年を超え30年以内の者 9カ月間 勤続30年を超えた者 12カ月間</p> <p>2 前項の計算は、欠勤した日から起算する。</p> <p>3 長期欠勤者が出勤し、30日以内に再び欠勤したときは、その前後の欠勤は連続したものと見なして欠勤期間を通算する。</p> <p>別表6 等級別標準職務表 <別表3 医療職員俸給表(2)></p> <table border="1"> <tr><td>1等級</td><td>看護部長、副看護部長</td></tr> <tr><td>2等級</td><td>副看護部長、総看護師長(千葉歯科医療センター)、看護師長</td></tr> <tr><td>3等級</td><td>助産師、看護師</td></tr> <tr><td>4等級</td><td>准看護師</td></tr> </table> | 1等級 | 看護部長、副看護部長 | 2等級 | 副看護部長、総看護師長(千葉歯科医療センター)、看護師長 | 3等級 | 助産師、看護師 | 4等級 | 准看護師 |
| 1等級 | 看護部長、副看護部長 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2等級 | 削除、削除、看護師長 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3等級(新設) | 主任看護師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4等級 | 助産師、看護師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5等級 | 准看護師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1等級 | 看護部長、副看護部長 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2等級 | 副看護部長、総看護師長(千葉歯科医療センター)、看護師長 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3等級 | 助産師、看護師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4等級 | 准看護師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

学校法人東京歯科大学就業規則の一部改正

※改正箇所のみ摘記

| 改正後 | 現 行 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|------|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|---|--|-----|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|------|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|---|
| <p>(休職)</p> <p>第 10 条 つぎの各号のひとつに該当する場合には、職員に対して休職を命ずることがある。</p> <p>(1) 業務上及び通勤途上の傷病により長期の休業を要する場合</p> <p>(2) 業務以外の傷病により欠勤し、<u>給与規程第 23 条第 1 項において勤続年数ごとに定める期間の経過後もなお療養を必要とする場合</u></p> <p>(3) 長期にわたり、職務に関連する学術の調査・研究または指導に従事する場合</p> <p>(4) 刑事事件により起訴された場合</p> <p>(5) その他特別の理由がある場合</p> <p>2 休職を命ぜられた職員は、その身分を保有するが、職務に従事しないものとする。</p> <p>(休職期間)</p> <p>第 11 条 休職の期間は、つぎのとおりとする。ただし、特別の理由がある場合には、これを延長することができる。</p> <p>(1) 前条第 1 項第 1 号の場合は、療養開始後 3 年以内とする。</p> <p>(2) <u>前条第 1 項第 2 号の場合は、1 年以内とし、結核性疾患については、2 年以内とする。ただし、同一または類似の傷病によって、復職後 1 年以内に再び欠勤を開始した場合は、休職期間を通算する。</u></p> <p>(3) 前条第 1 項第 4 号の場合は、その事件が裁判所に係属する間とする。</p> <p>(4) その他の場合は、必要と認めた期間とする。</p> <p>(年次有給休暇)</p> <p>第 35 条 職員に対し、つぎのとおり年次有給休暇を付与する。</p> <p>(1) 職員として採用された年度の年次有給休暇の日数は、採用月に応じて次のとおりとし、<u>採用日にこれを付与する。</u></p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>採用月</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>休暇日数</td> <td>16</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </table> <p>(2) 前号の翌年度の年次有給休暇の日数は、18 日とする。</p> <p>(3) 以後、年度を超える毎に 3 日を加算し、その日数は 26 日を超えない。<u>ただし、前年度の所定労働日数の 8 割以上出勤しなかつた者については、翌年度の年次有給休暇は 18 日とする。</u></p> <p>(4) <u>本項第 2 号および第 3 号において、付与日は毎年 4 月 1 日とする。</u></p> <p>2 私傷病またはやむをえない理由による欠勤は、1 カ月以内に本人から申出のあつた場合には、<u>残存有給休暇日数の限度において、有給休暇への振り替えを認めることがある。</u></p> <p>3 <u>当年度内の残存保有日数のうち、翌年度の初日において付与日から 2 年を経過しない分については、20 日を限度として翌年度に繰り越すことができる。</u></p> <p>4 第 1 項の年次有給休暇が 10 日以上与えられた職員に対しては、付与日から 1 年以内に、当該職員の有する年次有給休暇日数のうち 5 日について本法人が職員の意見を聴取し、その意見を尊重した上で、あらかじめ時季を指定して取得させる。ただし、職員が時季指定によらず年次有給休暇を取得した場合においては、当該取得した日数分を 5 日から控除するものとする。</p> <p>(特別有給休暇)</p> <p>第 37 条 職員は、年次有給休暇のほか、つぎの特別有給休暇を受けることができる。</p> <p>(1) 本人が結婚する場合 5 日以内</p> <p>(2) 子(養子を含む)が結婚する場合 1 日</p> <p>(3) 妻が分娩する場合 2 日以内</p> <p>(4) 配偶者の喪に服する場合 5 日以内</p> <p>(5) 父母(養父母、及び配偶者の同居父母を含む)の喪に服する場合 5 日以内</p> <p>(6) 子(養子を含む)およびその配偶者の喪に服する場合 5 日以内</p> <p>(7) 祖父母、兄弟姉妹、孫または配偶者の父母の喪に服する場合 2 日以内</p> <p>(8) その他必要ある場合 その期間</p> <p>(特別有給休暇の取得期間)</p> <p>第 37 条の 2 特別有給休暇の取得期間は次のとおりとする。</p> <p>(1) 本人が結婚及び子が結婚する場合は、挙式日もしくは入籍日の 5 日前から 1 年後までの期間</p> <p>(2) 妻が分娩する場合は、出産に係る入院等の日から当該出産の日後 2 週間を経過する日までの期間</p> <p>(3) 親族の喪に服する場合は、当該親族の死亡の日から 1 年後までの期間</p> <p>附 則 この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。</p> | 採用月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 休暇日数 | 16 | 15 | 13 | 12 | 11 | 10 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | <p>(休職)</p> <p>第 10 条 つぎの各号のひとつに該当する場合には、職員に対して休職を命ずることがある。</p> <p>(1) 業務上及び通勤途上の傷病により長期の休業を要する場合</p> <p>(2) 業務以外の傷病により欠勤し、給与の停止後もなお療養を必要とする場合</p> <p>(3) 長期にわたり、職務に関連する学術の調査・研究または指導に従事する場合</p> <p>(4) 刑事事件により起訴された場合</p> <p>(5) その他特別の理由がある場合</p> <p>2 休職を命ぜられた職員は、その身分を保有するが、職務に従事しないものとする。</p> <p>(休職期間)</p> <p>第 11 条 休職の期間は、つぎのとおりとする。ただし、特別の理由がある場合には、これを延長することができる。</p> <p>(1) 前条第 1 項第 1 号の場合は、療養開始後 3 年以内とする。</p> <p>(2) 前条第 1 項第 2 号の場合は、1 年以内とする。ただし、結核性疾患については、2 年以内とする。</p> <p>(3) 前条第 1 項第 4 号の場合は、その事件が裁判所に係属する間とする。</p> <p>(4) その他の場合は、必要と認めた期間とする。</p> <p>(年次有給休暇)</p> <p>第 35 条 全就業日の 8 割以上出勤した職員は、毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの間に、つぎの年次有給休暇を受けることができる。</p> <p>(1) 職員として採用された年度の年次有給休暇の日数は、採用月に応じて次の通りとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>採用月</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>休暇日数</td> <td>16</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </table> <p>(2) 前号の翌年度の年次有給休暇は、18 日とする。</p> <p>(3) 以後、年度を超える毎に 3 日を加算し、その日数は 26 日を超えない。</p> <p>2 前項第 1 号及び第 2 号において、採用後 6 カ月を経過するまでは、1 カ月につき 1 日の割合で受けることができる。但し、7 月以前に採用された者は 7 月以降に、8 月に採用された者は 8 月以降に、これに加えて計 6 日間の取得を認める。</p> <p>3 第 1 項第 3 号において、前年度の全就業日の 8 割以上出勤しなかつた者についての翌年度の年次有給休暇については、同項同号にかかわらず 18 日とする。</p> <p>4 私傷病またはやむをえない理由による欠勤は、1 カ月以内に本人から申出のあつた場合には、<u>残存有給休暇日数の限度において、これを有給休暇に振り替えることがある。</u></p> <p>5 年次有給休暇は、努めてその年度に受けるものとし残存 20 日分は、これを次年度に限り繰り越すことができる。</p> <p>6 第 1 項の年次有給休暇が 10 日以上与えられた職員に対しては、付与日から 1 年以内に、当該職員の有する年次有給休暇日数のうち 5 日について本学が職員の意見を聴取し、その意見を尊重した上で、あらかじめ時期を指定して取得させる。ただし、職員が時期指定によらず年次有給休暇を取得した場合においては、当該取得した日数分を 5 日から控除するものとする。</p> <p>(特別有給休暇)</p> <p>第 37 条 職員は、年次有給休暇のほか、つぎの特別有給休暇を受けることができる。</p> <p>(1) 本人が結婚する場合 5 日以内</p> <p>(2) 子(養子を含む)が結婚する場合 1 日</p> <p>(3) 妻が分娩する場合 2 日以内</p> <p>(4) 配偶者の喪に服する場合 5 日以内</p> <p>(5) 父母(養父母、及び配偶者の同居父母を含む)の喪に服する場合 5 日以内</p> <p>(6) 子(養子を含む)およびその配偶者の喪に服する場合 5 日以内</p> <p>(7) 祖父母、兄弟姉妹、孫または配偶者の父母の喪に服する場合 2 日以内</p> <p>(8) その他必要ある場合 その期間</p> | 採用月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 休暇日数 | 16 | 15 | 13 | 12 | 11 | 10 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 採用月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 休暇日数 | 16 | 15 | 13 | 12 | 11 | 10 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 採用月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 休暇日数 | 16 | 15 | 13 | 12 | 11 | 10 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

学校法人東京歯科大学職務手当支給内規の一部改正(案)

※改正箇所のみ摘記

| 改正後(案) | | | 現行 | | |
|--|---|-----------------------------|--|---|----|
| 2 職務手当(以下「手当」という。)は、管理と指揮監督の地位にある職員のうち、次に定める職務を命ぜられたものに支給する。 | | | 2 職務手当(以下「手当」という。)は、管理と指揮監督の地位にある職員のうち、次に定める職務を命ぜられたものに支給する。 | | |
| 所属 | 役職名 | 種別 | 所属 | 役職名 | 種別 |
| 大学 | 学長 | 一種 | 大学 | 学長 | 一種 |
| | 副学長 | 二種 | | 副学長 | 二種 |
| | 事務局長 | 三種 | | 事務局長 | 三種 |
| | 図書館長、教務部長、学生部長、事務局長補佐、事務部長 | 四種 | | 図書館長、教務部長、学生部長、口腔科学研究センター所長、事務局長補佐、事務部長 | 四種 |
| | 教養科目協議会幹事、基礎教授連絡会幹事、臨床教授連絡会幹事、研究部長、国際交流部長、学会・学術出版部長、広報・公開講座部長、 <u>口腔科学研究センター所長</u> 、研究機器管理部長、環境安全管理部長、実験動物施設管理部長、健康管理センター主任、図書館副館長、 <u>事務部長補佐</u> 、課長 | 五種 | | 教養科目協議会幹事、基礎教授連絡会幹事、臨床教授連絡会幹事、研究部長、国際交流部長、学会・学術出版部長、広報・公開講座部長、研究機器管理部長、環境安全管理部長、実験動物施設管理部長、健康管理センター主任、図書館副館長、課長 | 五種 |
| | 教務部副部長、学生部副部長、臨床教育委員長、臨床研修委員長、臨床基礎実習室運営委員長、研究部副部長、学会部主任、歯科学報主任、欧文紀要主任、総合講義・実習委員長、情報システム管理委員長、歯科医学教育開発センター主任、口腔科学研究センター副所長、 <u>図書館分館長</u> | 六種 | | 教務部副部長、学生部副部長、臨床教育委員長、臨床研修委員長、臨床基礎実習室運営委員長、研究部副部長、学会部主任、歯科学報主任、欧文紀要主任、総合講義・実習委員長、情報システム管理委員長、歯科医学教育開発センター主任、口腔科学研究センター副所長 | 六種 |
| | 電気技師長 | 八種 | | 電気技師長 | 八種 |
| | 水道橋病院 | 二種 | | 水道橋病院 | 二種 |
| 副病院長、事務部長 | 四種 | 副病院長、事務部長 | 四種 | | |
| 診療科部長、診療科科長、事務部長補佐、課長 | 五種 | 診療科部長、診療科科長、事務部長補佐、課長 | 五種 | | |
| <u>削除</u> 、臨床検査部長 | 六種 | 図書館分館長、臨床検査部長 | 六種 | | |
| <u>看護師長</u> 、診療放射線技師長 | 七種 | 看護師長(口腔外科)、診療放射線技師長 | 七種 | | |
| <u>削除</u> | <u>削除</u> | 看護師長 | 八種 | | |
| 千葉歯科医療センター | 二種 | 千葉歯科医療センター | 二種 | | |
| センター長 | 四種 | センター長 | 四種 | | |
| 副センター長、事務部長 | 五種 | 副センター長、事務部長 | 五種 | | |
| 診療科系部長、 <u>削除</u> 、 <u>削除</u> 、課長 | 六種 | 診療科系部長、診療科部長、診療科科長、課長 | 六種 | | |
| 総合予診室長、 <u>削除</u> 、教育主任、 <u>削除</u> | 七種 | 総合予診室長、臨床検査部長、教育主任、総看護師長 | 七種 | | |
| <u>削除</u> 、診療放射線技師長、 <u>削除</u> 、副センター長(歯科衛生士) | <u>削除</u> | 看護師長(口腔外科)、診療放射線技師長、臨床検査技師長 | 七種 | | |
| <u>削除</u> | <u>削除</u> | 看護師長 | 八種 | | |
| 附 則 この内規は、令和6年4月1日から施行する。 | | | | | |

国内見学者来校

水道橋校舎・水道橋病院

■医療法人鳳生会 藤リハビリテーション学院

対象日：2024年2月13日(火)～15日(木)9:30～16:00

見学施設：解剖実習室

見学者：学生30名(引率教員2名)

■東京医療専門学校

対象日：2024年2月20日(火)～22日(木)

10:00～16:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：学生28名

■学校法人医療創生大学 千葉・柏リハビリテーション学院

対象日：2024年2月26日(月)～28日(水)

10:00～14:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：26日学生40名(引率教員6名)、

27日学生34名(引率教員7名)

28日学生37名(引率教員7名)

■学校法人巨樹の会 八千代リハビリテーション学院

対象日：2024年3月6日(水)～8日(金)

午前10:00～12:30、午後13:30～16:00

見学施設：解剖実習室

見学者：学生午前75名、午後75名

■国際医療福祉専門学校

対象日：2024年3月13日(水)～15日(金)

10:00～16:00

見学施設：解剖実習室

見学者：13日学生18名(引率教員4名)、14,15日学生

40名(引率教員4名)

海外出張

水道橋校舎・水道橋病院

■半場秀典講師(保存修復)

ワシントン大学歯科保存学講座研究打ち合わせのため、2月11日(日)から2月15日(木)までアメリカ合衆国・シアトルへ出張。

■酒井貴徳講師(クラウンブリッジ補綴)

アメリカ95thAPS学会への参加・発表及び、OHSU渡邊教授と長期海外出張に向けた研究打ち合わせのため、2月22日(木)から2月28日(水)までアメリカ合衆国・シカゴ・ポートランドへ出張。

■山下慶子助教、銅治賢吾大学院生、久永理央大学院生、森心汰大学院生(歯周病)、伊東紘世大学院生(パーシャルデンチャー補綴)

2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibitionへの参加・発表のため、3月12日(火)から3月18日(月)までアメリカ合衆国・ニューオーリンズへ出張。

■半場秀典講師(保存修復)

2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibitionへの参加・発表および、ワシントン大学歯科保存学講座研究打ち合わせのため、3月12日(火)から3月20日(水)までアメリカ合衆国・ニューオーリンズ、シアトルへ出張。

■石原和幸教授(微生物)、齋藤 淳教授(歯周病)、平井研吾大学院生(小児歯科)

2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibitionへの参加・発表のため、3月13日(水)から3月18日(月)までアメリカ合衆国・ニューオーリンズへ出張。

■石塚洋一准教授(衛生)

2023年度第3学年 Elective Study Program の引率のため、3月16日(土)から3月22日(金)までスウェーデン・イェテボリへ出張。

■黄地健仁助教(生理)

2023年度第5学年 Elective Study Program の引率のため、3月17日(日)から3月23日(土)までアメリカ合衆国・ボストンへ出張。

■菅原圭亮准教授(口腔病態外科)

2023年度第4学年 Elective Study の引率のため、3月17日(日)から3月23日(土)までドイツ・ミュンヘンへ出張。

■齋藤 淳教授(歯周病)

The 25th China Northeast International Dental Equipment Exhibition (CNDE) 2024 エキスパートミーティングでの講演及び会議対応のため、3月23日(土)から3月25日(月)まで中国・瀋陽市へ出張。

■片倉 朗教授(口腔病態外科)

2024年第65回大韓口腔顎顔面外科学会総会学術大会への参加のため、4月11日(木)から4月13日(土)まで韓国・ソウルへ出張。

■立澤孝太郎レジデント(口腔病態外科)

2024年第65回大韓口腔顎顔面外科学会総会学術大会への参加、発表のため、4月11日(木)から4月13日(土)まで韓国・ソウルへ出張。

市川総合病院

■浅村尚生特任教授(呼吸器外科)

北京大学への訪問、研究会での講演のため、2月28日(水)～3月4日(月)まで中国・北京へ出張

■小坂橋俊哉教授(緩和ケア科)

18th World Congress of Anaesthesiologists へ参加のため、3月4日(月)～3月7日(木)まで、シンガポールへ出張

■宗 未来准教授(精神科)

10th biennial conference of the International Society of Interpersonal Psychotherapy (ISIPT) へ参加のため、3月12日(火)～3月18日(月)まで、イギリス・ニューキャッスルへ出張

病院見学

市川総合病院

■九州大学病院(眼科医1名)

2024年1月22日(月)～24日(水) 第二部手術室、外来、病棟、角膜センター

■福島県立医科大学附属病院(眼科医1名)

2024年2月21日(水)～22日(木) 第二部手術室

■野村武史教授(口腔腫瘍外科学講座)

IADR 102nd General session and Exhibition へ参加のため、3月13日(水)～3月18日(月)まで、アメリカ・ニューオリンズへ出張

■中島純子准教授(オーラルメディスン・病院歯科学講座)

江澤明穂大学院生(オーラルメディスン・病院歯科学講座) IADR 102nd General session and Exhibition へ参加のため、3月12日(火)～3月18日(月)まで、アメリカ・ニューオリンズへ出張

■山口剛史教授(眼科)

82nd Annual Conference of All India Ophthalmological Society へ参加のため、3月15日(金)～3月18日(月)まで、インド・コルタカへ出張

■浅村尚生特任教授(呼吸器外科)

The European Lung Cancer Congress 2024 へ招待参加のため、3月18日(月)～3月23日(土)まで、チェコ・プラハへ出張

■青山龍馬講師(整形外科)

14th Annual Meeting CSRS-AP2024 へ参加のため、3月22日(金)～3月25日(月)まで、シンガポールへ出張

■松本将吾助教(整形外科)

14th Annual Meeting CSRS-AP2024 へ参加のため、3月21日(木)～3月25日(月)まで、シンガポールへ出張

■浅村尚生特任教授(呼吸器外科)

European Society For Medical Oncology Advanced Course へ招待参加のため、4月19日(金)～4月21日(日)まで、香港へ出張

■しおさい眼科クリニック東雲(視能訓練士3名)

2024年3月6日(水)～毎週水曜 眼科外来

■白河厚生総合病院(臨床検査技師2名)

2024年3月13日(水) 外来採血見学

2024年2月

| | | 大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎 | 市川総合病院 | 千葉歯科医療センター |
|----|---|---|---|--|
| 1 | 木 | | 感染制御委員会 プログラム委員会 | 診療録整備部会 |
| 2 | 金 | 一般選抜(1期)大学入学共通テスト利用選抜(1期) 短大水道橋病院臨床実習小委員会 | こどもサポートチーム運営会議 | |
| 3 | 土 | 短大一般選抜 | | |
| 4 | 日 | | | |
| 5 | 月 | 短大教授会 | 市川リレーションシップカンファレンス | 千葉歯科医療センター研修管理小部会 医療連携部会 |
| 6 | 火 | 講座主任教授会(臨時) 水病感染予防対策チーム委員会 | 緩和ケア委員会 | リスクマネージャー部会 ICT部会 |
| 7 | 水 | 1～3年生後期定期試験(～2/14)、4年生後期追・再 試験(～2/14) 水病薬事委員会 | 臨床検査運営委員会 | |
| 8 | 木 | 5年生第2回総合学力試験 短大水道橋病院臨床実習指導者委員会 | 患者サービス向上委員会 手術室運営委員会 | |
| 9 | 金 | 短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会 | | |
| 10 | 土 | | | |
| 11 | 日 | | | |
| 12 | 月 | 建国記念の日 振替休日、創立記念日 | | |
| 13 | 火 | 短大教授会、水病給食委員会 | 緩和ケア委員会 | |
| 14 | 水 | 大学院運営委員会、大学院研究科委員会 水病リスクマネージメント部会 | 救急委員会 ICU運営委員会 | 千葉歯科医療センター医局長会 |
| 15 | 木 | 2年生総合学力試験、水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会 水病医療連携報告会 | 部長会 労務管理担当マネージャー会議 衛生委員会 説明と同意の質向上委員会 | |
| 16 | 金 | 4年生総合学力追・再試験 第171回倫理審査委員会・第112回利益相反委員会 | | |
| 17 | 土 | | | |
| 18 | 日 | | | |
| 19 | 月 | 3年生総合学力試験 | 医療安全管理委員会 | 千葉校舎衛生委員会 千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護部会 医療安全管理部会 感染予防対策部会 |
| 20 | 火 | 水病褥瘡対策委員会、1年生総合学力試験 口科研センター会議、臨床教授連絡会 講座主任教授会、人事委員会 水病教職員研修会 | 緩和ケア委員会 | |
| 21 | 水 | 4年生臨床実習前共用試験(CBT)、第10回図書館事務 連絡会 第10回国際交流部運営委員会 | 診療材料検討委員会 | 業務連絡会 |
| 22 | 木 | TDCビル協議会、口腔科学研究センターワークショップ | 管理診療委員会 | |
| 23 | 金 | 天皇誕生日 | | |
| 24 | 土 | 4年生臨床実習前共用試験(OSCE)テストラン | | |
| 25 | 日 | 4年生臨床実習前共用試験(OSCE) | | |
| 26 | 月 | 短大教授会 | キャンサーボード | |
| 27 | 火 | 1～3年生後期追・再試験(～3/1)、衛生委員会 | クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 | |
| 28 | 水 | 水病業務連絡会 水病データ管理者会議・診療録管理委員会 | 糖尿病教室 診療記録委員会・情報システム委員会 糖尿病チームカンファレンス 再指導対策プロジェクト会議 保険診療委員会 | 研修歯科医教育セミナー |
| 29 | 木 | | | |

| | | 大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎 | 市川総合病院 | 千葉歯科医療センター |
|----|---|--|--|--|
| 1 | 金 | 1～3年生後期追・再試験、 短大水道橋病院臨床実習小委員会 水病第2回研修管理委員会 | こどもサポートチーム運営会議 | |
| 2 | 土 | | | |
| 3 | 日 | 東京歯科大学リカレント教育セミナー | | |
| 4 | 月 | 3年生総合学力追・再試験 | 薬事委員会 | 研修管理小部会、医療連携部会 |
| 5 | 火 | 1・2年生総合学力追・再試験 水病感染予防対策チーム委員会 | 歯科研修管理委員会 緩和ケア委員会 | リスクマネージャー部会 ICT部会 |
| 6 | 水 | 基礎教授連絡会、大学院運営委員会 大学院研究科委員会、水病薬事委員会 | 合同カンファレンス 褥瘡対策委員会 臨床検査運営委員会 | |
| 7 | 木 | | 感染制御委員会 プログラム委員会 | 診療録整備部会 |
| 8 | 金 | | 医科研修管理委員会 | 研修管理委員会 |
| 9 | 土 | 一般選抜(Ⅱ期)、大学入学共通テスト利用選抜(Ⅱ期)、 編入学B、学士等特別選抜B | | |
| 10 | 日 | | | |
| 11 | 月 | | 公認会計士中間監査 | 千葉歯科医療センター医局長会 |
| 12 | 火 | 講座主任教授会 | 緩和ケア委員会 クリニカルパス大会 治験審査委員会・倫理審査委員会 ・利益相反委員会 | |
| 13 | 水 | 5年生総合学力追・再試験、水病リスクマネージメン ト部会 | 救急委員会 診療材料検討委員会 CPC、ICU運営委員会 | |
| 14 | 木 | 4年生臨床実習前共用試験(CBT)追・再試験 | 地域連携研修小委員会 患者サービス向上委員会 脳卒中センター運営会議 地域連携委員会 手術室運営委員会 | |
| 15 | 金 | 水病歯科医師臨床研修修了式 第172回倫理審査委員会・第113回利益相反委員会 | NSTカンファレンス 内視鏡室委員会 栄養管理委員会 | |
| 16 | 土 | | | |
| 17 | 日 | | | |
| 18 | 月 | | 医療安全管理委員会 | 千葉校舎衛生委員会 千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護部会 医療安全管理部会 感染予防対策部会 薬事部会(メール会議) |
| 19 | 火 | 第11回国際交流部運営委員会 | 緩和ケア委員会 | |
| 20 | 水 | 春分の日 | | |
| 21 | 木 | TDCビル協議会 水病病院運営会議・医局長会・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会 | 公認会計士中間監査、部長会 労務管理担当マネージャー会議 衛生委員会 説明と同意の質向上委員会 | |
| 22 | 金 | 臨床教授連絡会、講座主任教授会(臨時) | リスクマネージャー会議 給食運営会議 業務改善委員会 | |
| 23 | 土 | | | |
| 24 | 日 | | | |
| 25 | 月 | | がんセンターボード 移植医療運営委員会 | |
| 26 | 火 | 第11回図書館事務連絡会、衛生委員会 | クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 院内迅速対応システム検討委員会 市川リレーションシップカンファレンス | |

| | | | | |
|----|---|--------------------------------------|--|--------------------|
| 27 | 水 | 水病業務連絡会、水病データ管理者会議・ 診療録管理委員会 | 糖尿病教室 診療記録委員会・情報システム委員会 羊膜バンク運営委員会 糖尿病チームカンファレンス 再指導対策プロジェクト会議 保険診療委員会 DPC 症例検討委員会 輸血療法委員会 | 研修歯科医研修了式 業務連絡会 |
| 28 | 木 | 第 6 回図書委員会 水病診療録指導委員会(令和 5 年度 総括) | 管理診療委員会 バスキュラーボードカンファレンス | |
| 29 | 金 | | | |
| 30 | 土 | | | |
| 31 | 日 | | | |

| | | 大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎 | 市川総合病院 | 千葉歯科医療センター |
|----|---|--|---|---|
| 1 | 月 | 短大新入生オリエンテーション(～4/5) 法人・大学・2病院1センター合同辞令交付式 水病歯科医師臨床研修開始式 | 新入職員オリエンテーション | 令和6年度新規採用者オリエンテーション 研修管理小部会 |
| 2 | 火 | 短大3年生オリエンテーション 水病診療録指導委員会主催カンファレンス 水病感染予防対策チーム委員会 | 新入職員オリエンテーション(～4/3) 緩和ケア委員会 | 診療録指導委員会 |
| 3 | 水 | 水病薬事委員会 | | |
| 4 | 木 | 短大入学式 | プログラム委員会 | |
| 5 | 金 | 短大2年生オリエンテーション 短大水道橋病院臨床実習小委員会 | | |
| 6 | 土 | | | |
| 7 | 日 | | | |
| 8 | 月 | | | 千葉歯科医療センター令和6年度開始式 医療連携委員会 |
| 9 | 火 | 水病給食委員会 | 緩和ケア委員会 | リスクマネージャー部会 ICT部会 |
| 10 | 水 | 水病リスクマネージメント部会 | 診療材料検討委員会 ICU運営委員会 臨床検査運営委員会 | |
| 11 | 木 | 短大水道橋病院臨床実習指導者委員会 | 患者サービス向上委員会 感染制御委員会 手術室運営委員会 | |
| 12 | 金 | 短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会 | こどもサポートチーム運営会議 | |
| 13 | 土 | | | |
| 14 | 日 | | | |
| 15 | 月 | | 医療安全管理委員会 | 千葉校舎衛生委員会 千葉歯科医療センター医局長会 |
| 16 | 火 | 水病褥瘡対策委員会、臨床教授連絡会 人事委員会 | 緩和ケア委員会 | |
| 17 | 水 | 大学院運営委員会、大学院研究科委員会 | | |
| 18 | 木 | 水病病院運営会議・医局長会・業務連絡会・ 医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会 | 部長会 衛生委員会 労務管理担当マネージャー会議 説明と同意の質向上委員会 | |
| 19 | 金 | 第173回倫理審査委員会・第114回利益相反委員会 | NSTカンファレンス | |
| 20 | 土 | | | |
| 21 | 日 | | | |
| 22 | 月 | | がんセンターボード 院内がん登録小委員会 | 千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会 薬事委員会(メール会議) |
| 23 | 火 | 衛生委員会、水病教職員研修会 | クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 外来運営委員会 | |
| 24 | 水 | 水病データ管理者会議・診療録管理委員会 | 糖尿病教室 保険診療委員会 診療記録委員会・情報システム委員会 高難度新規医療技術等評価室運営会議 再指導対策プロジェクト会議 糖尿病チームカンファレンス | 業務連絡会 |
| 25 | 木 | TDCビル協議会 | 管理診療委員会 | |
| 26 | 金 | | | |
| 27 | 土 | | | |
| 28 | 日 | | | |
| 29 | 月 | 昭和の日 | | |
| 30 | 火 | | 緩和ケア委員会 | |

2024年5月

| | | 大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎 | 市川総合病院 | 千葉歯科医療センター |
|----|---|---|--|---|
| 1 | 水 | 1～5年生休講日(～5/6) 水病薬事委員会 | 臨床検査運営委員会 | |
| 2 | 木 | | 感染制御委員会 プログラム委員会 | |
| 3 | 金 | 憲法記念日 | | |
| 4 | 土 | みどりの日 | | |
| 5 | 日 | こどもの日 | | |
| 6 | 月 | こどもの日 振替休日 | | |
| 7 | 火 | 水病感染予防対策チーム委員会 短大水道橋病院臨床実習小委員会 | 緩和ケア委員会 | リスクマネージャー部会 ICT 部会 臨床研修管理小部会 医療連携委員会 |
| 8 | 水 | 水病リスクマネージメント部会 | 救急委員会(メール開催) 治験審査委員会・倫理審査委員会 ・利益相反委員会 CPC | |
| 9 | 木 | 短大水道橋病院臨床実習指導者委員会 | 患者サービス向上委員会 脳卒中センター運営会議 地域連携委員会 | |
| 10 | 金 | 短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会 | こどもサポートチーム運営会議 | |
| 11 | 土 | | 全館停電<一般系> | |
| 12 | 日 | | 全館停電<一般系> | |
| 13 | 月 | | 薬事委員会 | |
| 14 | 火 | | 公認会計士決算監査 緩和ケア委員会 | 千葉歯科医療センター医局長会 |
| 15 | 水 | | 患者サロン 褥瘡対策委員会 診療材料検討委員会 輸血療法委員会 ICU 運営委員会 | |
| 16 | 木 | 第2回図書館事務連絡会 水病病院運営会議・医局長会・業務連絡会 ・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会 | 部長会 衛生委員会 労務管理担当マネージャー会議 手術室運営委員会 説明と同意の質向上委員会 内視鏡室委員会 脳死判定委員会 | |
| 17 | 金 | 第174回倫理審査委員会・第115回利益相反委員会 | NST カンファレンス 栄養管理委員会 | |
| 18 | 土 | | 市民のための健康講座 | |
| 19 | 日 | | | |
| 20 | 月 | | 医療安全管理委員会 | 千葉校舎衛生委員会 |
| 21 | 火 | 口科研センター会議、臨床教授連絡会 講座主任教授会、人事委員会 | 公認会計士決算監査(～5/22) 緩和ケア委員会 | |
| 22 | 水 | 基礎教授連絡会、大学院運営委員会 大学院研究科委員会、第1回図書委員会 水病データ管理者会議・診療録管理委員会 | 糖尿病教室 保険診療委員会 診療記録委員会・情報システム委員会 再指導対策プロジェクト会議 糖尿病チームカンファレンス | |
| 23 | 木 | TDC ビル協議会、水病第1回研修管理委員会 | 管理診療委員会 | |
| 24 | 金 | | リスクマネージャー会議 給食運営会議 業務改善委員会 | |
| 25 | 土 | | | |
| 26 | 日 | | | |
| 27 | 月 | | がんサロンド | 千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護部会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会 |
| 28 | 火 | 衛生委員会、水病教職員研修会・診療録指導委員会 | クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 院内迅速対応システム検討委員会 市川リレーションシップカンファレンス | |
| 29 | 水 | | | 業務連絡会 |
| 30 | 木 | 6年生第1回総合学力試験(～5/31)、短大教授会 第751回理事会、第263回評議員会 | | |
| 31 | 金 | | | |

リレー連載

あのころ私も若かった！



今号の「私」は
山下 秀一郎 水道橋病院
病院長

神奈川県横浜市出身

昭和 59 年東京医科歯科大学歯学部卒
硬式テニス部

時は中学2年生の新学期が始まった頃に遡る。「物理」という教科名が時間割に記載されていたのを見て、母に「物理って何？」と聞いてみた。その返事は「あなたがきっと好きになる科目よ」とだけ返ってきた。楽しみにしていた最初の授業で、先生からの言葉は「物理によって日常生活で起こる現象を論理的に説明できる」という内容であった。その時「大学では理系に進もう」と心に決めた。

話は変わるが、子どもの頃に歯科医院に通院すると興味の矛先は回転切削器具であり、手元にスイッチがないのにスタートする仕組みが不思議でならなかった。さすがにフットペダルがあることは、当時の自分には知る由もない。「歯科医師になるとこういう精巧な器具を扱えるのか」と子どもながらの憧れを感じていた。

歯学部進学を決めるにあたり、将来の仕事として、①自分の手技で人に喜んでもらえる、②物理好きが役に立つ、③血を見なくてすむ、という基準があった。③についてはまったくの誤算であった(笑)。会社員であった父は「息子は自分と同じ道を進むものだ」と考えていたようであるが、母は「自分のやりたい道に進みなさい」と歯学部進学を喜んでくれた。

歯学部に進学したものの、3年生までは自分が歯科医師に向いているのかわからなかった。当時は大学から始めたテニスに没頭していた。たいした成績は残せなかったが、ここで得た同級生は自分の宝である。学年が上がり4年生で歯型彫刻実習を受講した時に、強いこだわりを持って臨んでいる自分がいることに気づかされた。6年生での臨床実習は本当に充実していた。処置後に患者さんから「すーっと痛みがなくなった」と言われ、自分の手技で患者さんのQOLを向上できる嬉しさを実感した。補綴装置の製作数を同級生同士で競い合い、「卒業時点で開業できるのではないかと勘違いするほどの症例数を手がけた。

大学卒業後の進路は迷いもなく補綴学を選択した。「自分が歯科医師を選んだ理由を一番具現化できる分野だ」と思ったからである。現在の診療体系は学生時代とは大きく変わったが、今でも補綴学は楽しくてしかたがない。あの時、背中を押してくれた亡き母に感謝したい。

雪の日に学校ではしゃぎ
上半身裸に



臨床実習は
患者さんの喜ぶ顔が
何よりの励みだった

車をこよなく愛する やましゅうの世界



テニス部時代
当時の仲間は一生の宝



物理と歯科の扉を開いてくれた
母に感謝



愛車のスバルBRZとともに
名車R32-GTRに乗っていたことも

はじめて患者さんに入れた
ブリッジの設計は今も覚えている



広報・公開講座部長：橋本 貞充

編集委員：阿部 潤也

上田 貴之

岡田 舞

河合 宏明

世木田 晋

国分 栄仁

高橋 恭子

瀧口 葵

田島 大地

多田 美穂子

橋本 尚呂子

前田 孝人

松浦 由美子

宮川 裕暉

渡辺 賢

編集後記

4月。歯科医師として、新社会人として歩み始めた129期の卒業生。そして、歯科医師を目指して学び始めた新入学の135期生。一人ひとりのはじめの一日。

中学、高校、大学と、それぞれの時代にパンデミックがあった。思い描いたものとは違った学校生活だったとしても、確かなのは、この息苦しかった数年間さえもがかけがえない大切な私の時間。世の中の人々が不安に流され、疑心暗鬼となった空気の中、自分なりに精一杯考えて選んできたその過程は、きっと未来に繋がっている。だから、若い頃にかつて自分たちが言われたことを忘れてしまっているオトナたちに、「いまの若い連中は！」とは言わせない。

ちょっと苦手な人とでも、一緒にいてもおびやかされない関係をつくることはできるはず。これから先、異なった個性を持った人たちとチームを組んで、お互いに助け合っていけないと乗り

越えることができない壁がいくつもあ
る。他の誰かのために動くことが、いつかその先の自分のためになるのだとしたら……。いくつもの気づきの中で、自分と周囲との隙間が少しずつ埋められていく。そして遠くない未来、自分の殻を破って多様性に溢れた広い世界へと飛び出していく。私がつたしていただけるために。



4月10日。講義初日の135期の新入生たち。これから始まる卒業までの長い道のり。走りきる覚悟を決める。